

電源制御ボックス FMRP-203

電源制御エージェントソフトスタートアップガイド

富士通株式会社

改版履歴

No.	版数	日付	変更項目	変更箇所
1	FMRP203-1300-0001-R00	2007.8.7	初版	全頁

はじめに

本書は電源制御ボックスFMRP-203のマニュアルです。

■ 本書の目的

本書では、電源制御ボックスFMRP-203をセットアップするために必要な情報を記述しています。

■ 本書の対象者

- ・ 本装置を使用して運用管理を行う管理者の方
- ・ 本装置を使用したシステムの構築を行う方

■ 本書の構成

1. 概要

装置の設定概要について説明します。

2. システム設計

装置を設定するためのシステム設計について説明します。

3. 設定の準備

装置の設定を行うための準備について説明します。

4. システム設定

装置に対するシステムの設定について説明します。

5. 設定の確認／バックアップ

装置の設定確認方法及び設定のバックアップについて説明します。

6. トラブルシューティング

装置の設定で間違いやすい操作について説明します。

7. システム設定例

装置の設定例について説明します。

8. エージェントソフトのインストール／アンインストール

本装置に添付しているエージェントソフトのインストール／アンインストール方法について説明します。

■ 関連マニュアル

以下の資料を参照する事により、本書をより深く理解する事が出来ます。

- 「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」
- 「電源制御ボックスFMRP-203 コマンドリファレンス」
- 「電源制御ボックスFMRP-203 取扱説明書」

お願い

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 本書を無断で複写または他に転写しないでください。・ 本書は予告なく変更することがあります。 |
|--|

Microsoft, Windows, Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標又は商標です。

All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 2007
All Rights Reserved, Copyright © 株式会社F F C 2007

目次

第1章	概要	8
第2章	システム設計	10
2.1	接続対象装置	10
2.2	異常発生時の通知	10
2.3	状況確認・復旧	11
2.4	ネットワーク構成	11
第3章	設定の準備	12
3.1	COM管理コンソール設定	12
3.2	TELNET管理コンソール	13
3.3	HTTP設定ツール	13
第4章	システム設定	14
4.1	設定の流れ	14
4.1.1	ルート権限又は管理者権限でのログイン	14
4.1.2	項目の設定	14
4.1.3	設定のセーブ	15
4.1.4	再起動	15
4.2	COM管理コンソールとTELNET管理コンソール	15
4.2.1	ログイン	15
4.2.2	項目の設定	15
4.2.3	設定のセーブ	16
4.2.4	再起動	16
4.3	HTTP設定ツール	17
4.3.1	ログイン	17
4.3.2	項目の設定	17
4.3.3	設定のセーブ	18
4.3.4	再起動	19
4.4	必ず設定が必要な項目	20
4.4.1	COM管理コンソール、TELNET管理コンソールでの設定例	20
4.4.2	HTTP設定ツールからの設定例	21
4.5	設定項目一覧	21
4.6	パソコン接続時の設定項目	31
4.7	留意事項	32
4.7.1	COM管理コンソールとTELNET管理コンソール	32
4.7.2	HTTP設定ツール	32

4.7.3	設定のバックアップとリストア	32
第5章	設定確認.....	33
5.1	設定の確認方法.....	33
5.2	設定のバックアップ.....	34
5.2.1	COM管理コンソールとTELNET管理コンソール	34
5.2.2	HTTP設定ツール	34
第6章	トラブルシューティング.....	35
6.1	ログインユーザ名、パスワードを忘れた場合	35
6.2	ブラウザで接続できない場合.....	35
6.3	パソコンの再電源投入ができない場合	35
第7章	システム設定例.....	36
第8章	エージェントソフトのインストールとアンインストール.....	37
8.1	エージェントソフトのインストール.....	37
8.1.1	WINDOWSパソコンにログオン	37
8.1.2	インストールを開始.....	37
8.1.3	インストール先を指定.....	39
8.1.4	インストールの確認	40
8.1.5	インストール完了	41
8.1.6	コンピュータの再起動.....	41
8.2	エージェントソフトのアンインストール.....	42
8.2.1	WINDOWSパソコンにログオン	42
8.2.2	コントロールパネルの表示.....	42
8.2.3	アンインストール操作.....	42
8.3	留意事項.....	44
第9章	電源制御ボックス互換コマンドのインストールとアンインストール.....	48
9.1	電源制御ボックス互換コマンドのインストール.....	48
9.1.1	WINDOWSパソコンにログオン	48
9.1.2	インストールを開始.....	48
9.1.3	インストール先を指定.....	50
9.1.4	インストールの確認	51
9.1.5	インストール完了	52
9.2	電源制御ボックス互換コマンドのアンインストール.....	53
9.2.1	WINDOWSパソコンにログオン	53
9.2.2	コントロールパネルの表示.....	53
9.2.3	アンインストール操作.....	53

9.3 留意事項.....54

第1章 概要

電源制御ボックスFMRP-203（以降、「電源制御ボックス」と呼びます）は、電源制御装置とコンソール接続装置を複合化した電源制御ボックスです。

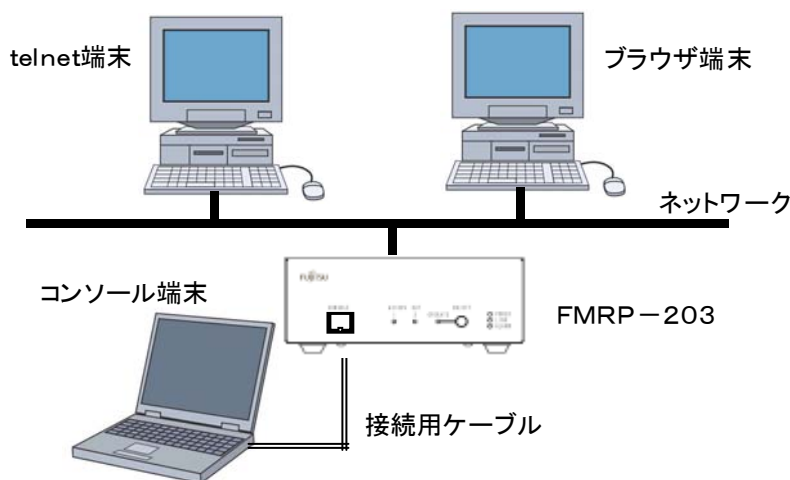
Windowsパソコンや周辺機器といった各種装置を一元管理して運用することが可能となります。

本書ではこの電源制御ボックスのシステムへの導入のために必要となる装置の設定手順について記述しております。

電源制御ボックスへのシステム設定方法は、以下の方法があります。どの方法でもシステム設定は可能です。

表1.1 設定方法

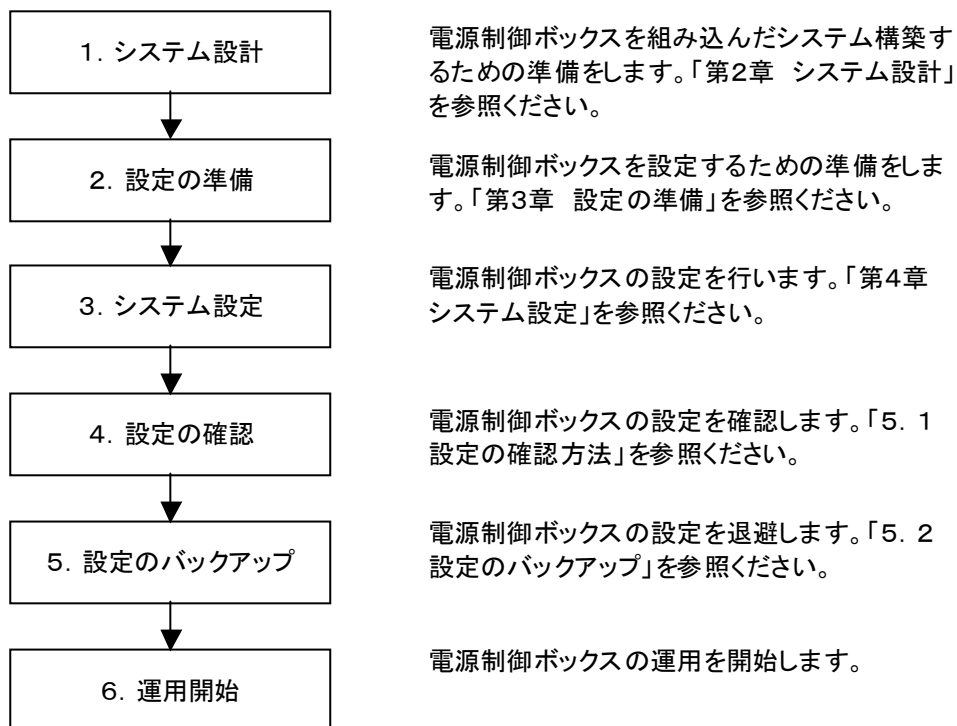
項	設定方法	説明	準備するもの
1	COM管理 コンソール設定	電源制御ボックス前面のCONSOLEポートと接続して、ターミナルソフトウェアを介して設定します。	設定用PC 電源制御ボックス接続ケーブル
2	TELNET管理 コンソール設定	電源制御ボックスにTELNETクライアントから接続して設定します。	TELNET端末
3	HTTP設定ツール	電源制御ボックスにブラウザで接続して設定します。	ブラウザ端末



※コンソール端末とtelnet端末の接続は、排他接続になります。どちらか一方が接続中に、もう一方からの接続はできません。また、CONSOLEポートに接続用ケーブルを物理的に再接続した場合は、接続中のTELNET管理コンソールは切断されCOM管理コンソール接続を優先します。

図1 設定のための接続図

電源制御ボックスの設定は、以下の手順で行います。



第2章 システム設計

電源制御ボックスを用いるシステムは、対象装置の監視・異常時の操作・復旧を考慮したシステム設計を行う必要があります。本項では、電源制御ボックスを用いたシステムを設計する上で必要な項目について説明します。

2.1 接続対象装置

電源制御ボックスに接続し、監視できる装置にはWindowsパソコン及び周辺機器があります。

Windowsパソコンを接続する場合には、パソコン側にRS-232Cポートが存在する必要があるため、電源制御ボックスとRS-232Cポートを接続します。パソコンのコンセントは電源制御ボックス背面のAC出力コンセントに接続します。

周辺装置を接続する場合には、周辺装置側にRS-232Cポートが存在していれば電源制御ボックスとRS-232Cポートを接続することが可能です。周辺装置のコンセントは電源制御ボックス背面のAC出力コンセントに接続します。

接続に関しては、取扱説明書をご参照ください。

各装置を接続するさいには以下の点にご注意ください。

(1) 最大入力電流

電源制御ボックスへ接続する機器の最大入力電流は、最大で15A(1050W)です。また、1コンセント当たり、10A(700W)までです。従って、監視する装置の最大入力電流は、接続装置全体で15A(1050W)以下でかつ1コンセント10A(700W)以下にしてください。最大入力電流以上の電流を通電すると過電流状態となり、強制的に電源が切断されます。

(2) 停電・復電の動作

電源制御ボックスに接続する装置の、停電・復電時の動作はUPSの設定とコンセント設定に従います。UPSの容量と全接続装置の容量を計算し、設計する必要があります。特に、接続した装置間に関連した電源切断時間の設定があれば、その時間も考慮する必要があります。

2.2 異常発生時の通知

電源制御ボックスで監視できる項目は、ICMP監視(PING監視)とDSR監視(シリアルポート監視)とサーバ起動完了監視(パソコンのみ)とウォッチドッグ監視(パソコンのみ)です。監視で異常を判断するとブザー、LED表示により異常を通知します。ネットワークからはSNMPのトラップ通知を行います。従って、ネットワーク上で装置異常を監視するにはSNMPマネージャを準備する必要があります。

※サーバ起動完了監視やウォッチドッグ監視を行うには付属のエージェントソフトを

パソコンにインストールする必要があります。詳しくは「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」を参照してください(エージェントソフトのインストール、アンインストール方法については「第8章 エージェントソフトのインストール/アンインストール」を参照ください)。

2.3 状況確認・復旧

電源制御ボックスにより異常を検出した場合、現場に赴き、目視にて異常状況を判断する方法とネットワークから透過通信の機能を使用して異常の装置に接続する方法があります。透過通信を行う場合は、TELNETクライアント端末を準備する必要があります。

電源制御ボックスは、接続された異常状態の装置を復旧させるために、電源のOFF/ONを行います。電源制御ボックスを操作するためには、ブラウザを搭載した端末、又はTELNETクライアント端末が必要になります。

2.4 ネットワーク構成

電源制御ボックスは、LAN接続する端末です。電源制御ボックスにIPアドレスを設定する必要があります。ルータを介する場合は、デフォルトゲートウェイを設定する必要があります。

また、電源制御ボックス1台にネットワーク接続する装置は、接続する装置（サーバや周辺機器）やNTPサーバも含め、最大で26台接続可能です。

	FMRP-203
接続装置	2台
ゲートウェイ装置	1台
NTPサーバ	1台
SNMPマネージャ	10台
アプリ電源投入・切断端末	12台
計	26台

第3章 設定の準備

電源制御ボックスの設定の準備は、設定方法によって異なります。以下にそれぞれの準備について説明します。

3.1 COM管理コンソール設定

電源制御ボックス前面のCONSOLEポートに接続して設定を行う場合は、以下の準備が必要です。

(1) 電源制御ボックスとコンソール端末の接続

電源制御ボックスのCONSOLE接続コネクタとコンソール端末は、電源制御ボックス接続用ケーブルで接続してください（詳細は、取扱説明書をご参照ください）。パソコンで端末エミュレータをご使用の場合、COM1 またはCOM2 へのダイレクトな接続に設定してください。

(2) ターミナルソフトウェアの設定

ターミナルソフトウェアをご使用の場合は、下記の設定をご確認ください。

ボーレート : 9600bps
データビット : 8ビット
ストップビット : 1ビット
パリティ : なし
フロー制御 : なし

(3) 電源投入

電源制御ボックスの電源を投入します。起動が完了すると装置ブザーが鳴動後、ターミナル端末に以下のプロンプトが表示されます。

UserName :

3.2 TELNET管理コンソール

電源制御ボックスとTELNET接続にての設定を行う場合は、以下の準備が必要です。

(1) 電源制御ボックスとTELNET端末の接続

電源制御ボックスとTELNET端末は、ネットワーク接続してください。ツイストペアケーブルのクロスケーブルを用いて電源制御ボックスのLANコネクタとTELNET端末のLANコネクタを直接接続します。または、HUBを用いてツイストペアケーブルのストレートケーブルで電源制御ボックスとTELNET端末を接続します。

(2) 電源投入

電源制御ボックスの電源を投入します。起動が完了するとブザー音が鳴動します。

(3) ターミナルソフトウェアの起動

TELNET端末のターミナルソフトウェアを起動します。接続するIPアドレスは、以下のアドレスを指定してください。

192.168.1.1 (工場出荷時のデフォルト設定)

※接続ポート番号は、23番です。

※Windows Vista では telnet クライアント機能の有効化が必要となります。操作の詳細は Windows のヘルプ等を参照してください。

3.3 HTTP設定ツール

電源制御ボックスとHTTP接続にて設定を行う場合は、以下の準備が必要です。

(1) 電源制御ボックスとブラウザ端末の接続

電源制御ボックスとブラウザ端末は、ネットワーク接続してください。ツイストペアケーブルのクロスケーブルを用いて電源制御ボックスのLANコネクタとブラウザ端末のLANコネクタを直接接続します。または、HUBを用いてツイストペアケーブルのストレートケーブルで電源制御ボックスとブラウザ端末を接続します。

(2) 電源投入

電源制御ボックスの電源を投入します。起動が完了するとブザー音が鳴動します。

(3) ブラウザの起動

ブラウザ端末のブラウザを起動します。接続するURLは、以下のURLを指定してください。

<http://192.168.1.1>

※ブラウザの設定は、以下の設定をご確認ください。

・プロキシの設定 : 全てなし

第4章 システム設定

電源制御ボックスのシステム設定を行います。システム設定を行うには、ログインが必要になります。

出荷時のデフォルトログインユーザIDは、ルート権限のもので、ログイン後、必ずログインIDとパスワードは変更してください。（ユーザ権限については、「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」をご参照ください。）

以下に、デフォルトユーザIDとパスワードを示します。

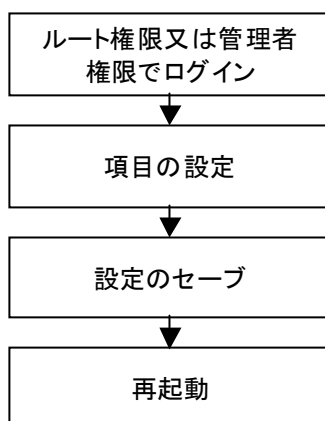
ユーザID : root

パスワード : fmrp203

以下に電源制御ボックスのシステム設定について説明します。

4.1 設定の流れ

電源制御ボックスの設定は、次の流れで行います。



4.1.1 ルート権限又は管理者権限でのログイン

電源制御ボックスには、ルート権限又は管理者権限のユーザIDでログインします（ユーザ権限でのログインは、設定項目の表示のみ可能となります。権限についての詳細は、「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」をご参照ください。）。

出荷直後は、ルート権限のユーザIDのみ設定されていますので、そのユーザIDでログインしてください。但し、セキュリティを考慮し、必ずルート権限のユーザIDを変更することをお勧めします。

4.1.2 項目の設定

電源制御ボックスのIPアドレスや接続装置の種類等の設定を行います。COM管理コンソール、TELENET管理コンソールからの設定は、コマンド形式で設定します。HTTP設定ツールからの設定は、ブラウザからGUIで設定します。

4.1.3 設定のセーブ

各項目を設定後、不揮発性メモリに設定をセーブします。不揮発性メモリは、電源制御ボックスの電源を切断してもデータが消去されないメモリです。設定のセーブを行わないと電源制御ボックスの電源が切断された場合に、設定が消去されてしまいます。設定のセーブは、必ず行ってください。

4.1.4 再起動

電源制御ボックスを再起動します。再起動後、電源制御ボックスは不揮発性メモリ上の設定データをもとに運用を開始します。電源制御ボックスの再起動は、再起動前の状態を記憶しているため、運用中に行っても接続している装置には影響ありません。再起動前に電源投入中の装置は、再起動中、再起動後も電源投入状態を保ちます。

4.2 COM管理コンソールとTELNET管理コンソール

COM管理コンソール、TELNET管理コンソールの項目設定の流れについて説明します。

4.2.1 ログイン

電源制御ボックスにCOM管理コンソール又はTELNET管理コンソールから設定を行う場合は、まず「UserName :」プロンプトにつづいて、ユーザIDを入力し、「Password :」プロンプトにつづいて、パスワードを入力してログインします。下記にログインの入力例を示します。

```
UserName : root<cr>  
Password : fmrp203<cr>
```

※下線部は、入力を示します。<cr>は、エンターキー入力を示します。

4.2.2 項目の設定

ログイン後、電源制御ボックスの設定を行います。COM管理コンソール、TELNET管理コンソールの各コマンドについての詳細は、「FMRP-203 コマンドリファレンス」をご参照ください。

4.2.3 設定のセーブ

電源制御ボックスに項目を設定した後、設定項目をセーブします。設定のセーブには、「save」コマンドを使用します。下記に使用例を示します。

```
> save<cr>  
Command execution?[Yes:Enter No:Esc]  
<cr>
```

※下線部は、入力を示します。<cr>は、エンターキー入力を示します。

4.2.4 再起動

設定のセーブ後、本装置を再起動します。再起動には、「reset」コマンドを使用します。下記に使用例を示します。

```
> reset<cr>  
Command execution?[Yes:Enter No:Esc]  
<cr>
```

※下線部は、入力を示します。<cr>は、エンターキー入力を示します。

4.3 HTTP設定ツール

HTTP設定ツールの項目設定の流れについて説明します。

4.3.1 ログイン

電源制御ボックスの設定にHTTP設定ツールを行う場合は、「ユーザ名」にユーザIDを入力し、「パスワード」にパスワードを入力します。下記にログイン入力例を示します。

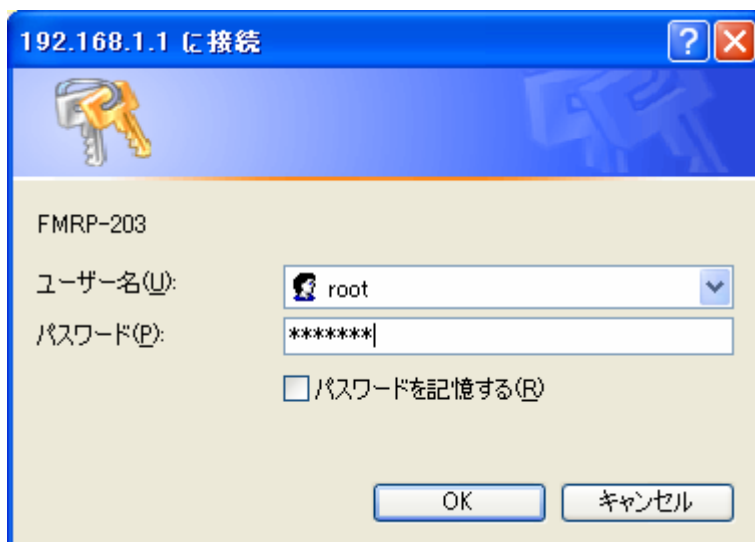


図4.1 ログイン画面

4.3.2 項目の設定

ログイン後、電源制御ボックスの設定を行います。HTTP設定ツールの詳細は、「FMRP-203 オペレーションガイド」をご参照ください。

4.3.3 設定のセーブ

電源制御ボックスに項目を入力し「設定」ボタンをクリックした後、設定項目をセーブします。メニューフレームから「設定保存」を選択し、プルダウンメニューから「NVRAMに現在の設定をセーブする」を選択します。「設定保存」ボタンをクリックして設定をセーブします。下記に「設定保存」画面を示します。

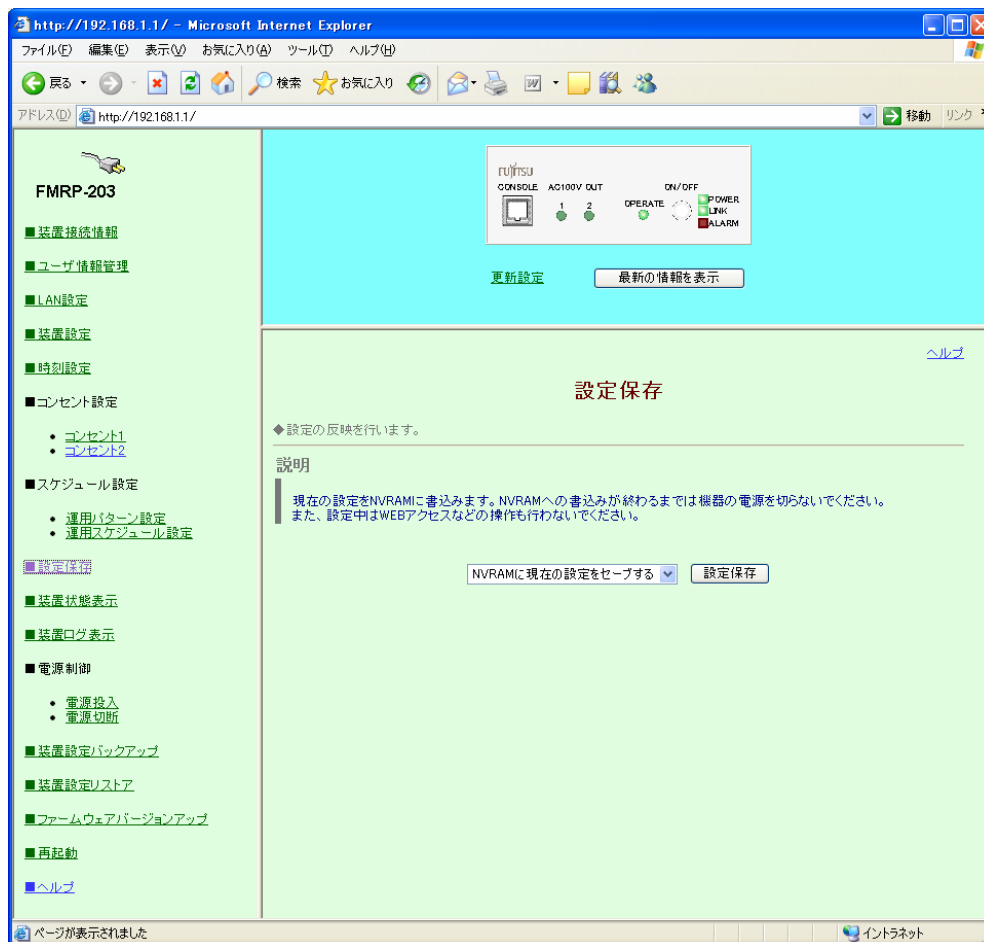


図4. 2 : 設定保存画面

4.3.4 再起動

設定のセーブ後、本装置を再起動します。再起動には、メニューフレームから「再起動」を選択します。「再起動」ボタンをクリックして、電源制御ボックスを再起動します。下記に「再起動」画面を示します。

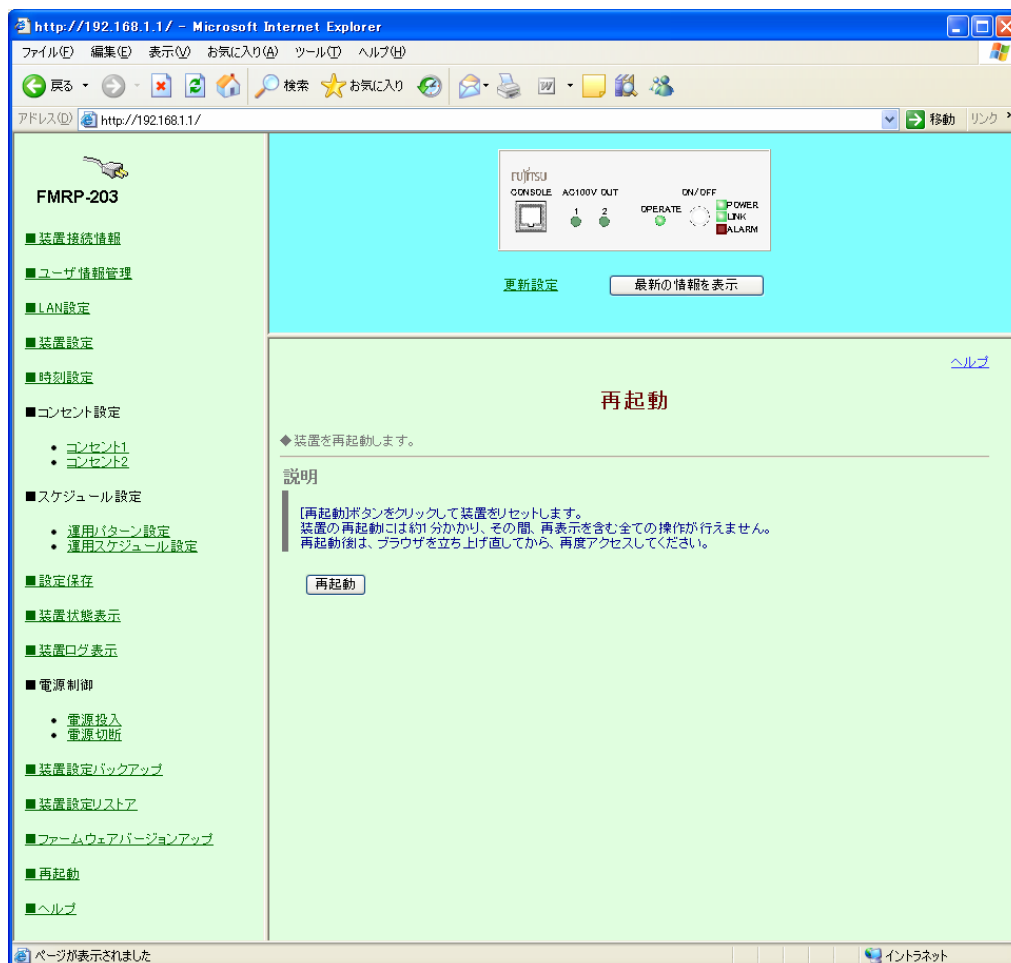


図4. 3 : 再起動画面

4.4 必ず設定が必要な項目

電源制御ボックスの設定に必ず設定しなければならない項目があります。本装置を動作させるには、LAN設定のIPアドレス及びサブネットマスクを設定します。

項	設定項目	説明	デフォルト
1	IPアドレス	装置のIPアドレス	192.168.1.1
2	サブネットマスク	装置のサブネットマスクアドレス	255.255.255.0

4.4.1 COM管理コンソール、TELNET管理コンソールでの設定例

IPアドレスとサブネットマスクの設定例を示します。

IPアドレス：192.168.100.110

サブネットマスク：255.255.255.0

```
>setlan fmrp#01,192.168.100.110,255.255.255.0<cr>
>setlan<cr>
[Command Format]
  SETLAN <hostname>,<IP>,<subnet>,<gateway>

[NOW SETTING]
  SETLAN fmrp#01,192.168.100.110,255.255.255.0
>
```

※下線部は、入力を示します。<cr>は、エンターキー入力を示します。

4.4.2 HTTP設定ツールからの設定例

HTTP設定ツールでのIPアドレスとサブネットマスクの設定例を示します。メニューフレームから「LAN設定」を選択し、設定します。

IPアドレス：192.168.100.110

サブネットマスク：255.255.255.0

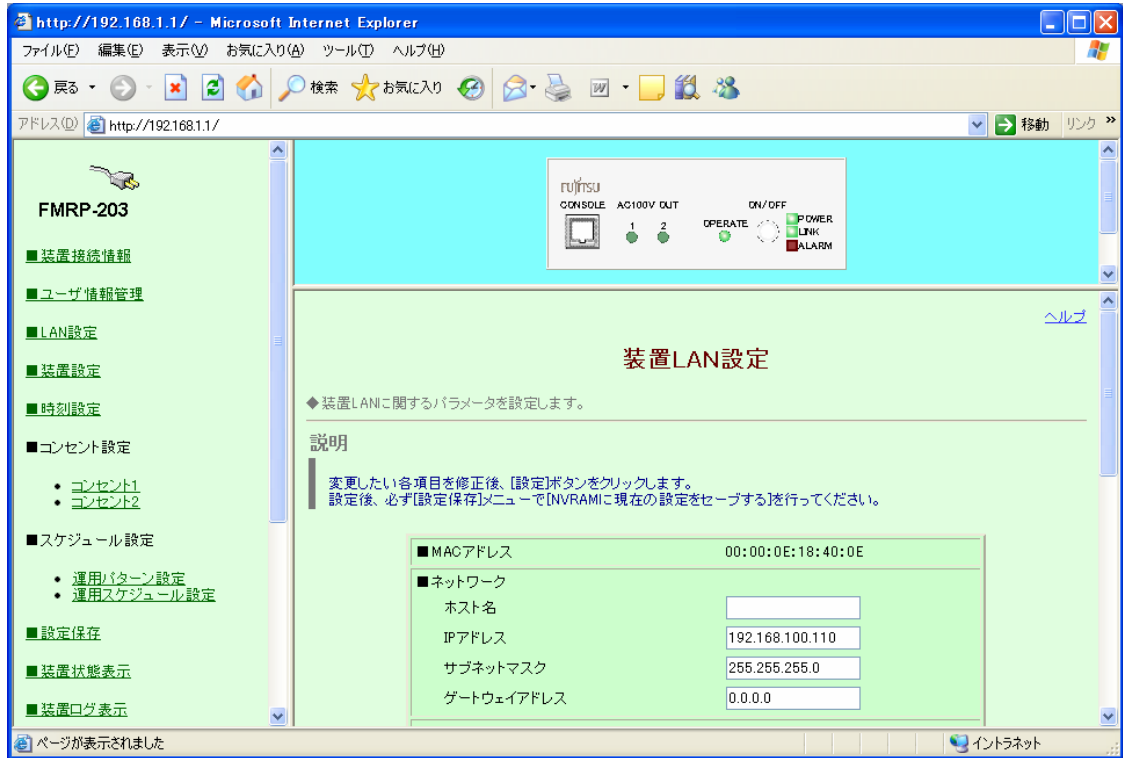


図4.4：LAN設定画面

4.5 設定項目一覧

電源制御ボックスに設定する項目は、各機能ごとにまとめられています。下記に設定内容の概要と設定の一覧について説明します。

- ・セキュリティ設定：装置に対するログイン情報および、リモートからの電源投入および切断の設定を行います。
- ・許可端末設定：アプリケーション起動許可端末として使用する通信端末情報の設定を行います。
- ・時刻設定：装置内の時計機能に時刻を設定します。
- ・コンセント動作設定：電源操作のタイミングや装置動作に関する設定を行います。
- ・監視設定：機器監視を行う際に使用する設定を行います。
- ・装置動作設定：装置内共通の動作関連する項目(LAN関係除く)の設定を行います。
- ・装置LAN設定：装置内のIPアドレス、SNMP関連、NTP関連の設定を行います。
- ・スケジュール動作設定：スケジュールによる電源操作の設定を行います。

以下に、設定項目について説明します。

設定項目		内容	備考			
セキュリティ	ルートユーザ	ログイン名	本装置のルートユーザ用ログイン名を半角英数字で最長8文字設定します。 デフォルト値：root	装置内共通設定	常時1件追加不可 削除不可 変更可能	
		パスワード	ルートユーザ用ログイン名に対応するパスワードを半角英数記号で6～8文字設定します。 デフォルト値：fmrp203			
	管理ユーザ	ログイン名	本装置の管理者用ログイン名を半角英数字で最長8文字設定します。 デフォルト値：なし。			最大5件
		パスワード	管理者用ログイン名に対応するパスワードを半角英数記号で6～8文字設定します。 デフォルト値：なし。			
	ユーザ	ログイン名	本装置の一般用ログイン名を半角英数字で最長8文字設定します。 デフォルト値：なし。			最大5件
		パスワード	一般用ログイン名に対応するパスワードを半角英数記号で6～8文字設定します。 デフォルト値：なし。			
	リモート電源投入設定		リモートからによる電源投入の許可/禁止を設定します。 デフォルト値：許可	コンセント毎に設定		
	リモート電源切断設定		リモートからによる電源切断の許可/禁止を設定します。 デフォルト値：許可			
許可端末設定	アプリケーション設定	IPアドレス	電源投入/切断を許可する相手のIPアドレスを指定します。 デフォルト値：なし(0.0.0.0)。	コンセント毎に電源投入/切断を最大3件ずつ設定可能		
		ポート番号	電源投入/切断を許可する相手からの電文受信用ポート番号を指定します。 デフォルト値：なし。			
		手順	電源投入/切断を許可する相手の通信手順を指定します。 指定できる手順としては “UDP/IP”と“TCP/IP”があります。 デフォルト値：なし。			
時刻設定	カレンダー時刻設定	本装置のカレンダー値(西暦/月/日)と時刻(時/分)を設定します。	装置内共通設定			

設定項目	内容	備考
コンセント動作設定	<p>通信設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロー制御 <p>接続機器とのシリアル通信条件（フロー制御）を各ポート毎に設定します。</p> <p>（なし／ハードウェア／X-onX-off）</p> <p>デフォルト値：X-onX-off</p>	
装置動作設定	<p>停電発生からシャットダウン開始までの待ち時間</p> <p>本装置がUPSから停電信号を受けてから接続機器のシャットダウンシーケンスを開始するまでの待ち時間を分単位で指定します。（0～180までの数値・分単位）。（待ち時間内に復電した場合にはシャットダウンしない。）</p> <p>接続機器のシャットダウンシーケンスは、各コンセント動作設定に従います。</p> <p>デフォルト値：5分</p>	装置内共通設定
	<p>UPSの電源出力停止設定</p> <p>UPS停電を検出後、全ACコンセントの出力を停止した後にUPSの出力を停止するかを選択します。（有効／無効）</p> <p>この設定が無効（出力継続）の場合はUPSは放電終了まで動作しつづけます。</p> <p>デフォルト値：有効（停止）</p>	
	<p>全コンセント電源切断からUPSの電源出力停止までの待ち時間</p> <p>UPSの電源出力停止設定が有効な場合にUPS停電を検出し、全ACコンセントの出力を停止したタイミングからUPS出力の停止を実行するまでの待ち時間を秒単位で設定します。</p> <p>（0～1800までの数値・秒単位）</p> <p>デフォルト値：10秒</p>	
	<p>全コンセント自動投入</p> <p>停電によりエージェントへのAC出力を停止した後に復電した場合、自動的にAC出力を開始するかを指定します</p> <p>デフォルト値：有効（AC出力再開）</p>	
装置動作設定	<p>停電時にバッテリー低下発生後の復電による全コンセント自動投入</p> <p>停電によるシャットダウン処理中にバッテリー低下が発生してAC出力を停止後に復電した場合、自動的にAC出力を開始するかを指定します（有効／無効）。復電直後に再度停電が発生する場合はUPSのバッテリー容量が不足する場合がありますので、十分注意して設定してください。</p> <p>デフォルト値：有効</p>	装置内共通設定
	<p>UPS復電検出時動作</p> <p>停電によりエージェントへのAC出力を停止した後に復電した場合、全コンセント停止後に自動的にAC出力を開始するか、停止したコンセントから自動的にAC出力を開始するかを指定します。（一括投入／個別投入）</p> <p>デフォルト値：個別投入</p>	

設定項目		内容	備考	
装置動作設定	異常時のブザー鳴動設定	本装置の異常発生時に鳴動させるかどうかを設定します (有効/無効) デフォルト値：有効 (ブザー鳴動)	装置内共通 設定	
	電源ON/OFF スイッチ	電源ON/OFFスイッチからの電源投入/電源切断操 作を許可するかどうかを設定します (有効/無効) デフォルト値：有効		
監視設定	パソコン監視 (PING)	監視パソコンIPア ドレス	PING通信監視を行うためのパソコンおよび周辺機器 のIPアドレスを設定します。 デフォルト値：なし	コンセント毎 に設定
		パソコン監視動作	パソコンおよび周辺機器に対してのPING通信を使用 しての通信監視を行うかを設定します。(有効/無効) P ING監視は、パソコン起動完了監視が有効であればパソ コンの起動が完了してから監視します。パソコン起動完了 監視が無効であれば電源操作を行った時点から監視しま す。 デフォルト値：無効	
		パソコン監視開始待 ち時間	コンセントの電源投入後にパソコンおよび周辺機器に対 してPING通信を開始するまでの待ち時間を秒単位で 設定します。(0~7200までの数値・秒単位) デフォルト値：0秒	
		パソコン監視間隔	パソコンおよび、周辺機器に対してPING通信を行う間 隔を秒単位で設定します。(1~1800までの数値・秒 単位) デフォルト値：60秒	
		パソコン応答待ち時 間	パソコンおよび、周辺機器に対してPING通信を行っ た後に応答が返ってくるまでの待ち時間を秒単位で設定 します。(5~1800までの数値・秒単位) デフォルト値：10秒	
		パソコン応答タイム アウト時の監視リト ライ回数	パソコンおよび、周辺機器に対してPING通信のレスポ ンス待ちタイムアウトを検出した際にPING通信を再 実行する回数を設定します。(0~10までの数値・回数 単位) デフォルト値：5回	
	パソコン 起動完了 監視	パソコン監視動作	パソコン起動完了監視を行うかを設定します。(有効/無 効) 接続選択に“Windows パソコン”を選択した場合にの み有効を選択できます。 デフォルト値：無効	

設定項目		内容	備考
監視設定	パソコン起動完了監視	<p>パソコン起動完了待ち時間</p> <p>パソコンに対して電源投入してから起動完了通知を受け取るまでの監視時間を設定します。(0～120までの数値・分単位)</p> <p>デフォルト値：10分</p>	コンセント毎に設定
	ウォッチドッグ監視	<p>パソコン監視動作</p> <p>ウォッチドッグ監視を行うかを設定します。(有効/無効) 接続選択に“Windows パソコン”を選択した場合にのみ有効を選択できます。ウォッチドッグ監視はパソコンの起動が完了してから監視します。</p> <p>デフォルト値：無効</p>	
		<p>パソコン監視間隔</p> <p>パソコンに対して、ウォッチドッグ監視を行う間隔を秒単位で設定します。(1～1800までの数値・秒単位)</p> <p>デフォルト値：60秒</p>	
		<p>パソコン応答待ち時間</p> <p>パソコンに対して、ウォッチドッグ監視を行った後に応答が返ってくるまでの待ち時間を秒単位で設定します。(5～1800までの数値・秒単位)</p> <p>デフォルト値：10秒</p>	
		<p>パソコン応答タイムアウト時の監視リトライ回数</p> <p>ウォッチドッグ監視のタイムアウトを検出した際に再監視する回数を設定します。(0～10までの数値・回数単位)</p> <p>デフォルト値：5回</p>	
監視	シリアル信号監視動作	<p>シリアルポートのDSR信号監視を行うかを設定します。(有効/無効) シリアル信号監視は、パソコン起動完了監視が有効であればパソコンの起動が完了してから監視します。パソコン起動完了監視が無効であれば電源操作を行った時点から監視します。</p> <p>デフォルト値：無効</p>	

設定項目		内容	備考	
監視設定	シリアルポート (DSR信号) 監視	<p>パソコン監視開始モード選択</p> <p>パソコン監視開始の方法を選択します。以下のいずれかの動作から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> パソコンのDSR信号ONを検出後監視開始 コンセントの電源投入後にパソコンのDSR信号のONを一度検出してからDSR信号の監視を開始します。この動作モードは接続機器として“Windows パソコン”を選択した場合のみ使用できます。 パソコン監視開始待ち時間 指定した時間待った後にDSR信号の監視を開始します。この動作を選択した場合には“パソコン監視開始待ち時間”を設定する必要があります。 <p>デフォルト値：“パソコン監視開始待ち時間”</p>	コンセント毎に設定	
		<p>パソコン監視開始待ち時間</p> <p>コンセントの電源投入後にパソコンおよび周辺機器のDSR信号の監視を開始するまでの待ち時間を秒単位で設定します。(0~7200までの数値:秒単位)</p> <p>デフォルト値:0秒</p>		
装置LAN設定	ホスト名	<p>本装置をネットワークに接続する際に使用するホスト名を設定します。</p> <p>デフォルト値:なし</p>	装置内共通設定	
	IPアドレス	<p>本装置をネットワークに接続する際に使用するIPアドレスを設定します。</p> <p>デフォルト値:192.168.1.1</p>		
	サブネットマスク	<p>本装置をネットワークに接続する際に使用するサブネットマスクを設定します。</p> <p>デフォルト値:255.255.255.0</p>		
	ゲートウェイアドレス	<p>本装置をネットワークに接続する際に使用するゲートウェイアドレスを設定します。</p> <p>デフォルト値:なし(0.0.0.0)</p>		
SNMP	コミュニティ名	<p>SNMPアクセスで使用するコミュニティ名を設定します。</p> <p>デフォルト値:なし</p>	装置内共通設定	最大5件登録可能

設定項目		内容	備考		
装置LAN設定	SNMP	トラップ通知先	SNMPトラップ通知で使用する通知先を設定します。 デフォルト値：なし（0.0.0.0）	装置内 共通設 定	最大 5件 登録 可能
		アクセス許可 アドレス	SNMPアクセスを許可するIPアドレスを指定します。 デフォルト値：なし（0.0.0.0）		
		装置設置場所	SNMPアクセスで使用する装置設置場所を設定します。 デフォルト値：なし		
		連絡先	SNMPアクセスで使用する連絡先を設定します。 デフォルト値：なし		
	NTP	時刻同期設定	NTPを使用しての時刻同期の有効/無効を設定します。 デフォルト値：無効	装置内共通 設定	
		時刻同期間隔	時刻同期の間隔を分単位で設定します。 （0～1440までの数値・分単位） ※0指定時には電源制御ボックス起動時に1回だけ時刻 同期処理を行います。 デフォルト値：1440分（24時間）		
		NTPサーバアドレ ス	時刻同期に用いるサーバのIPアドレスを指定します。 デフォルト値：なし（0.0.0.0）		
スケジュール動作設定	スケジュール設定	各コンセントに対して、スケジュールによる電源投入/切 断を行うかを設定します。（有効/無効） デフォルト値：無効	装置内共通 設定		
	スケジュール追従設定	本装置の電源投入時またはUPS停電後に復電を検出し た際、現在時刻からさかのぼって最も間近に実行済みとな ったスケジュールを検索し、そのスケジュールを実行する かを設定します。（有効/無効）停電発生後に復電した場 合についてのスケジュール追従動作の詳細は「電源制御ボ ックスFMRP-203 オペレーションガイド」を参照 ください。 デフォルト値：無効			
	運用パター ン設定	運用パター ン名	設定する運用パターンを選択します。 （運用パターンA/運用パターンB/運用パターンC/ 運用パターンD/運用パターンE/運用パターンF/運 用パターンG/運用パターンH/運用パターンI/運用 パターンJ）	運用パターン 毎に設定	
	運用パター ン名称	各運用パターンの名称を設定します。 デフォルト値：なし			

設定項目		内容		備考	
スケジュール動作設定	運用パターン設定	動作時刻	スケジュールが起動する時刻（時/分）を設定します。 デフォルト値：なし	運用パターン毎に設定	最大20件登録可能
		コンセント	コンセント毎に電源投入/切断するかを設定します。 （--/OFF/ON）接続選択が“接続なし”の場合は設定しても電源投入/切断が行われません。 デフォルト値：--		
	特定日スケジュール設定	設定日	スケジュールを実行する日付（月/日）を設定します。	日付毎に設定	
運用パターン	特定日に実行するスケジュールパターンを設定します。 （--/運用パターンA/運用パターンB/運用パターンC/運用パターンD/運用パターンE/運用パターンF/運用パターンG/運用パターンH/運用パターンI/運用パターンJ/平日運用パターン/休日運用パターン/休止） デフォルト値：--				
スケジュール実行後設定を保持する	毎年同じ日付に指定したスケジュールを実行するかを設定します。 デフォルト値：なし				
週間スケジュール設定	曜日	スケジュールを設定する曜日を選択します。	曜日毎に設定		
	スケジュール	曜日毎に実行するスケジュールパターンを設定します。 （運用パターンA/運用パターンB/運用パターンC/運用パターンD/運用パターンE/運用パターンF/運用パターンG/運用パターンH/運用パターンI/運用パターンJ/平日運用パターン/休日運用パターン/休止） デフォルト値：日曜日＝休日運用パターン 月曜日＝平日運用パターン 火曜日＝平日運用パターン 水曜日＝平日運用パターン 木曜日＝平日運用パターン 金曜日＝平日運用パターン 土曜日＝休日運用パターン			

設定項目		内容	備考
スケジュール動作設定	平日・休日スケジュール設定	平日用設定パターン 平日に実行するスケジュールパターンを設定します。 (---/運用パターンA/運用パターンB/運用パターンC/運用パターンD/運用パターンE/運用パターンF/運用パターンG/運用パターンH/運用パターンI/運用パターンJ) デフォルト値：---	装置内共通
		休日用設定パターン 休日に実行するスケジュールパターンを設定します。 (---/運用パターンA/運用パターンB/運用パターンC/運用パターンD/運用パターンE/運用パターンF/運用パターンG/運用パターンH/運用パターンI/運用パターンJ) デフォルト値：---	

4.6 パソコン接続時の設定項目

電源制御ボックスから接続されているパソコンを安全にシャットダウンするためには、必ず以下の項目を設定するようにしてください。

・コンセント設定(必須)

設定項目	設定値	
接続選択	“Windows パソコン”	
シャットダウン開始から電源切断までの時間	推奨値：3分 この値はカスタマイズ可能です。 ご使用のパソコンにあわせてシャットダウンを開始してから終了するまでに十分な値を設定してください。	固定値 ユーザ任意値
シリアルポート設定	推奨値： ボーレート : 9600 データ長 : 8 bit パリティ : なし ストップビット長 : 1 bit フロー制御 : X-ON X-OFF ※パソコン側の通信設定にあわせてカスタマイズしてご使用ください。	ユーザ任意値

・監視設定(任意)

設定項目	設定値	
パソコン監視 (PING)	ご使用になるシステム構成にあわせて設定してください。 使用する際に”パソコン監視動作”を有効にしてご使用ください。	ユーザ任意値
パソコン起動完了監視	ご使用になるシステム構成にあわせて設定してください。 使用する際に”パソコン監視動作”を有効にしてご使用ください。	ユーザ任意値
ウォッチドッグ監視	ご使用になるシステム構成にあわせて設定してください。 使用する際に”パソコン監視動作”を有効にしてご使用ください。	ユーザ任意値
シリアルポート (DSR信号) 監視	使用する際に”パソコン監視動作”を有効にしてご使用ください。	ユーザ任意値

Windowsパソコンを電源制御ボックスからシャットダウンするには、あらかじめ装置添付のエージェントソフトをパソコンにインストールする必要があります。

エージェントソフトは電源制御ボックスとシリアル通信を介して連携しOSのシャットダウン処理を実行するソフトウェアです。詳しくは「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」を参照してください。

エージェントソフトのインストール、アンインストール方法については「第8章 エージェントソフトのインストール/アンインストール」を参照ください。

4.7 留意事項

4.7.1 COM管理コンソールとTELNET管理コンソール

電源制御ボックス設定のためのCOM管理コンソールとTELNET管理コンソールは、排他接続となっています。COM管理コンソールと接続してログインしている最中は、TELNET管理コンソールへの接続は拒否されます。TELNET管理コンソールへ接続してログインしている最中にコンソールからはログインできません。但し、TELNET管理コンソールに接続してログイン中に、ターミナルソフトウェアを起動した端末と電源制御ボックス前面のCONSOLEポートを接続用ケーブルで接続する(又は、接続しなおす)とCOM管理コンソールログインが優先され、接続中のTELNET管理コンソールは強制切断されます。

4.7.2 HTTP設定ツール

電源制御ボックス設定のためのHTTP設定ツールは、複数からの接続が可能のため、後設定優先になります。また、HTTP設定ツールとCOM管理コンソール、HTTP設定ツールとTELNET管理コンソールも同時接続可能なため、後設定優先になります。但し、HTTP接続の場合は、性質上ユーザ管理情報の設定が「設定」ボタンのクリックで即時反映されるため、矛盾が生じることがあります(HTTPでログインできるユーザでは、コンソールからのログインで拒否される)。従って、必ず「NVRAMへの設定保存」を行った後に再起動を行ってください。

4.7.3 設定のバックアップとリストア

電源制御ボックスにおける現在の設定のバックアップとリストアは、設定方法毎に行います。COM管理コンソールやTELNET管理コンソールでバックアップした設定ファイルは、COM管理コンソール、TELNET管理コンソールでリストアできますが、HTTP設定ツールではリストアできません。逆に、HTTP設定ツールでバックアップした設定ファイルは、HTTP設定ツールでリストアを行えますが、COM管理コンソールやTELNET管理コンソールではリストアできません。

第5章 設定確認

電源制御ボックスの設定が完了したら、動作の確認を行います。

5.1 設定の確認方法

電源制御ボックスの設定の確認は、実際に動作させて確認します。

(1) セキュリティ設定

ユーザ管理情報は、実際ログインできるかどうか確認します。リモート電源投入/切断設定は、ブラウザやアプリ電源投入/切断での電源投入/切断操作を行ってLEDの点灯/消灯状態を確認します。

(2) 許可端末設定

サンプル提供されているアプリ電源投入/切断コマンドを利用して確認します。サンプルプログラムについては、「電源制御ボックスFMRP-203 オペレーションガイド」をご参照ください。

(3) 時刻設定

設定した時刻は、COM管理コンソール、TELNET管理コンソール、HTTP設定ツールのそれぞれの設定方法で確認できます。

(4) コンセント動作設定

前面スイッチの操作やブラウザ等からのリモート電源操作で動作を確認します。

(5) 装置動作設定

UPSの設定確認は、接続したUPSへの供給電源を擬似停電として停止させて確認します。但し、各コンセントに接続されたパソコンのシャットダウン時間等の設定は、各コンセントの設定に依存するので、先にコンセント設定の確認が必要になります。

通信設定の確認は、各コンセント毎に行ないます。接続する周辺機器と透過通信接続を行い、設定が正しい場合は、周辺機器へのコンソール接続として利用できます。

(6) 監視動作設定

各コンセントに接続される機器との接続を確認します。監視異常が発生すると装置前面のLEDが点滅して、アラームLEDが点灯します。LANケーブルをはずしたり、接続ケーブルをはずすことで監視状況を確認できます。

(7) 装置LAN設定

装置自身のネットワーク設定は、装置に対するPING通信、SNMPマネージャからのアクセス、NTPサーバとの時刻合わせを確認します。

(8) スケジュール動作設定

スケジュール動作の設定確認はスケジュール動作時間に各ポートに対して電源投入/切断操作が行われていることをLEDの点灯/消灯状態で確認します。

5.2 設定のバックアップ

設定の動作確認が完了したら、現在の設定のバックアップを行います。この作業は重要な作業です。例えば、ログインユーザ名、パスワードを忘れてしまった場合、設定を工場出荷時の設定に戻さない限り再度ログインすることはできません。工場出荷時の設定から簡単に現在の設定に戻すための手段が、設定のバックアップとリストアです。

ここで、設定をバックアップしておけば、再度設定を戻すことが容易です。

5.2.1 COM管理コンソールとTELNET管理コンソール

COM管理コンソールとTELNET管理コンソールでの設定のバックアップは、ターミナルソフトウェアのテキストのログ機能を使用します（Windowsに添付のハイパーターミナルの場合は、「テキストのキャプチャー」機能です）。

設定のバックアップ手順を以下に示します。

【手順1】 ターミナルソフトウェアで接続したCOM管理コンソール又はTELNET管理コンソールで「allget」（設定バックアップコマンド）と入力します。この時までリターンキーは押下しません。

```
>allget
```

【手順2】 ターミナルソフトウェアのテキストのログ機能を有効にします。ハイパーターミナルソフトウェアの場合は、「転送」メニューの「テキストのキャプチャー」を選択し、ログファイルを設定します。

【手順3】 COM管理コンソール又はTELNET管理コンソールの設定バックアップコマンドを実行します。【手順1】の状態からリターンキーを押下します。

【手順4】 設定が表示され、表示が完了してコマンドプロンプトが表示されたらターミナルソフトウェアのログ機能を終了させます。

※ 設定をリストアする時は、このファイルを使用します。ターミナルソフトウェアによってはログ機能でファイルに格納したデータの1行の区切りが80文字で自動的に改行されている場合がありますので、その場合はその改行を削除して1行にしてください。

5.2.2 HTTP設定ツール

HTTP設定ツールでの設定バックアップは、「装置設定バックアップ」メニューを選択して行います。「装置設定バックアップ」画面に表示された設定をカット&ペーストして「メモ帳」等のテキストエディタに貼り付け、ファイルに格納することでバックアップします。

バックアップした装置設定を、また装置にリストアする場合には、「設定のリストア」メニューを選択して行います。「設定のリストア」画面でバックアップファイルを指定して、装置に転送することによりリストアできます。

第6章 トラブルシューティング

6.1 ログインユーザ名、パスワードを忘れた場合

管理者権限のユーザを憶えていれば、工場出荷時の設定に戻し、デフォルト設定されているルートユーザ権限でログインできます。但し、現在設定済みのデータもデフォルト値に戻ってしまうので、必ず設定はバックアップしておきましょう。

完全に忘れてしまった場合は、ディップスイッチの5番をONに設定して電源制御ボックスを起動します。起動後、全設定(※)が初期化されますので、デフォルト設定のルートユーザ権限でログインし、設定保存してから電源切断してください。

なお、設定初期化後は、必ずディップスイッチの5番をOFFに戻してから使用してください。

※装置ログは初期化されません。

6.2 ブラウザで接続できない場合

ブラウザにプロキシの設定が行われているとURLは、プロキシ経由で接続しに行きます。その場合は、電源制御ボックスのアドレスをプロキシを使用しないようにブラウザを設定してください。

コンピュータのアドレス及びサブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスの設定を確認してください。

6.3 パソコンの再電源投入ができない場合

パソコンの電源切断後すぐに再投入して運用する際、電源AC切断からAC投入までの時間が短い場合に、パソコン本体側の要因により正常起動しないことがあります。このような場合は“電源投入待ち時間”に適切な間隔（30秒程度）を再設定し使用してください。

第7章 システム設定例

システム設定例を示します。ご参考ください。

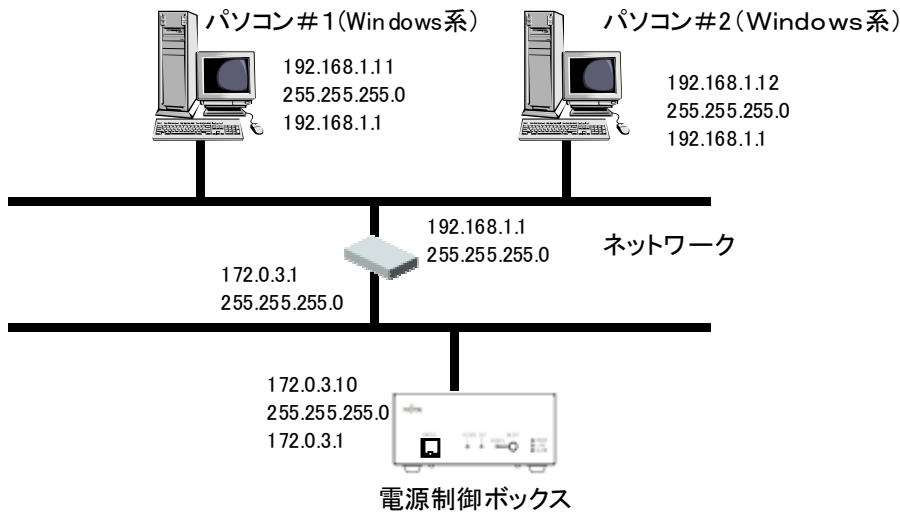


図7. 1 システム構成例

上図のCOM管理コンソール、TELNET管理コンソールからの設定例を示します。

```

SETHARD ON
SETLAN FMRP203, 172. 0. 3. 10, 255. 255. 255. 0, 172. 0. 3. 1
SETOUTLET 1, WINPC#1, PC, ON, ON, 10, 10, 3
SETOUTLET 2, WINPC#2, PC, ON, ON, 11, 10, 3
SETWATCH 1, ON, 192. 168. 1. 11, 60, 10, 5, OFF, 60, 10, 5, OFF, 10, ON
SETWATCH 2, ON, 192. 168. 1. 12, 60, 10, 5, ON, 60, 10, 5, ON, 10, ON
SETCOM 1, 9600, NON, 8, 1, SOFT
SETCOM 2, 9600, NON, 8, 1, SOFT
  
```

第8章 エージェントソフトのインストールとアンインストール

本装置に添付のエージェントソフトをインストール／アンインストールする手順について説明します。

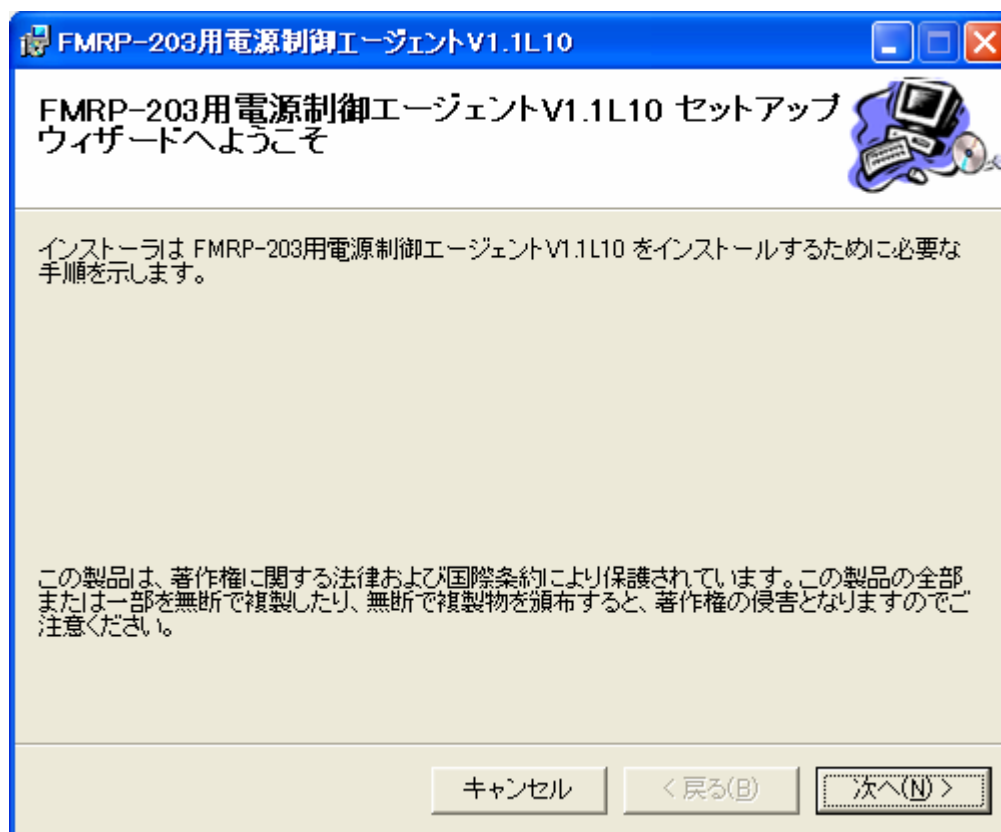
8.1 エージェントソフトのインストール

8.1.1 Windowsパソコンにログオン

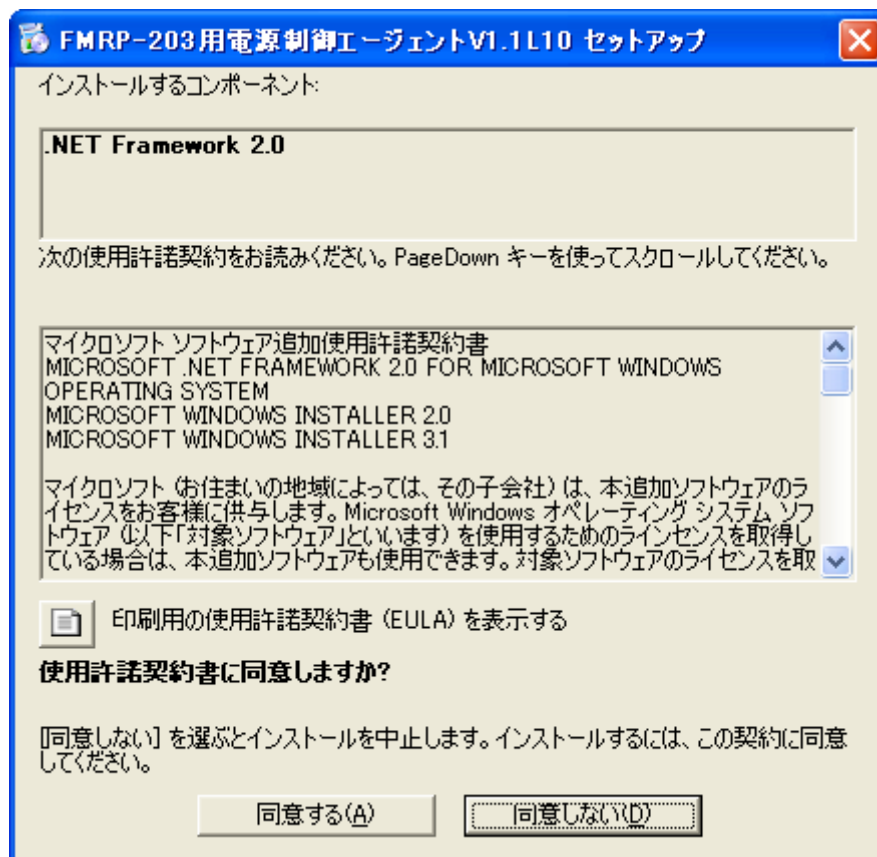
エージェントソフトをインストールするコンピュータにAdministrator権限に所属するユーザ名で、ログオンします。

8.1.2 インストールを開始

インストールを行うコンピュータに本CD-ROMをセットし、エージェントソフトディレクトリ (¥Agent Soft) 配下のインストールプログラム (Setup.exe) を実行します。
以下の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。

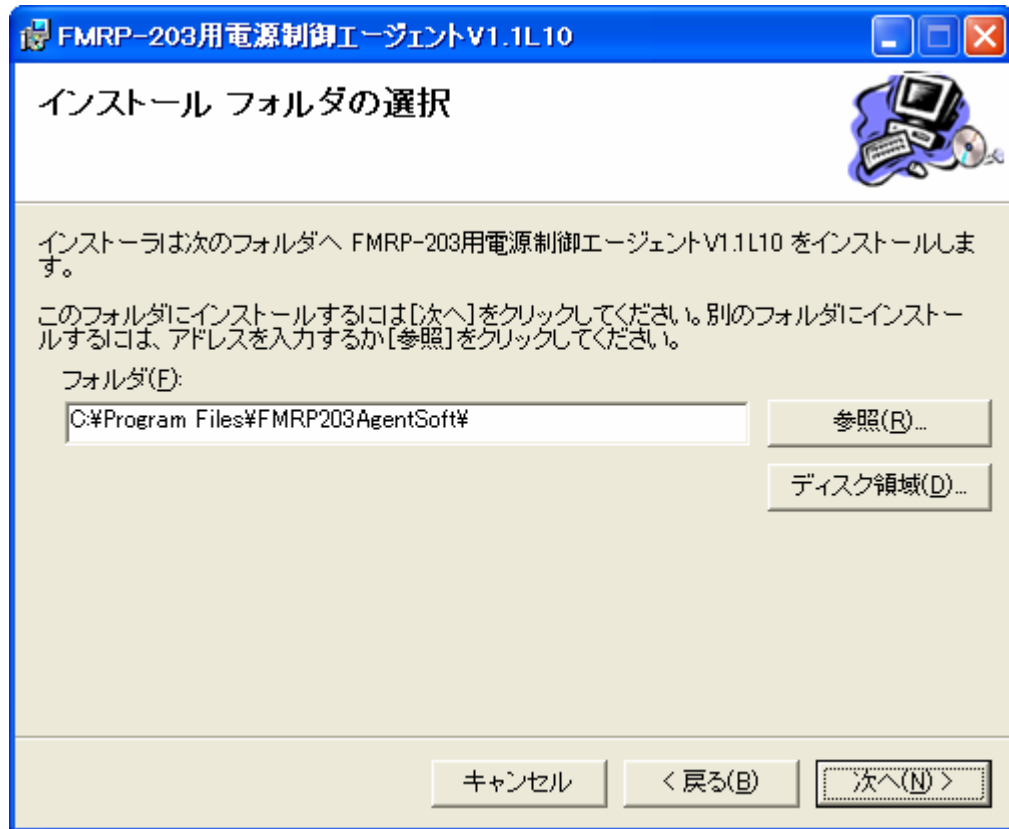


※このとき、前述の「セットアップウィザードによるこそ」画面が表示されず、以下のMicrosoft .NET Framework 2.0 のインストール画面が表示されたとき、まずMicrosoft .NET Framework 2.0 をインストールし、引き続き FMRP-203 用電源制御エージェントをインストールします。



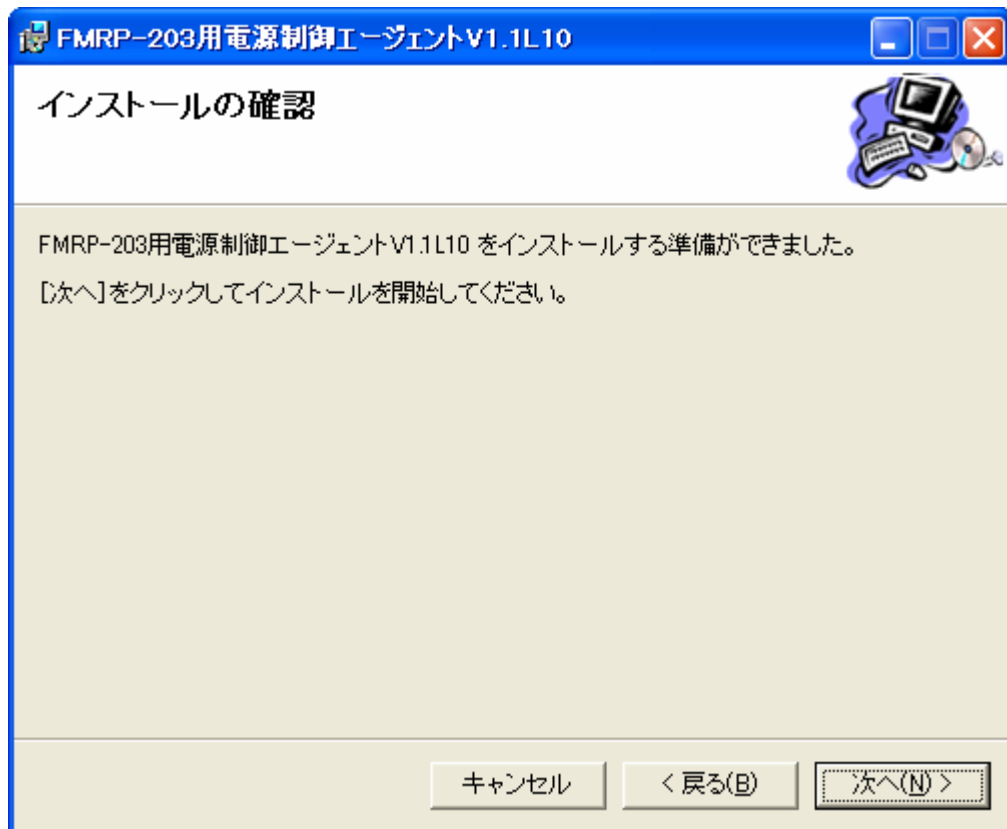
8.1.3 インストール先を指定

[インストールフォルダの選択] 画面でインストール先ディレクトリ（デフォルトは C:\Program Files\Fmrp203Agentsoft）を確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



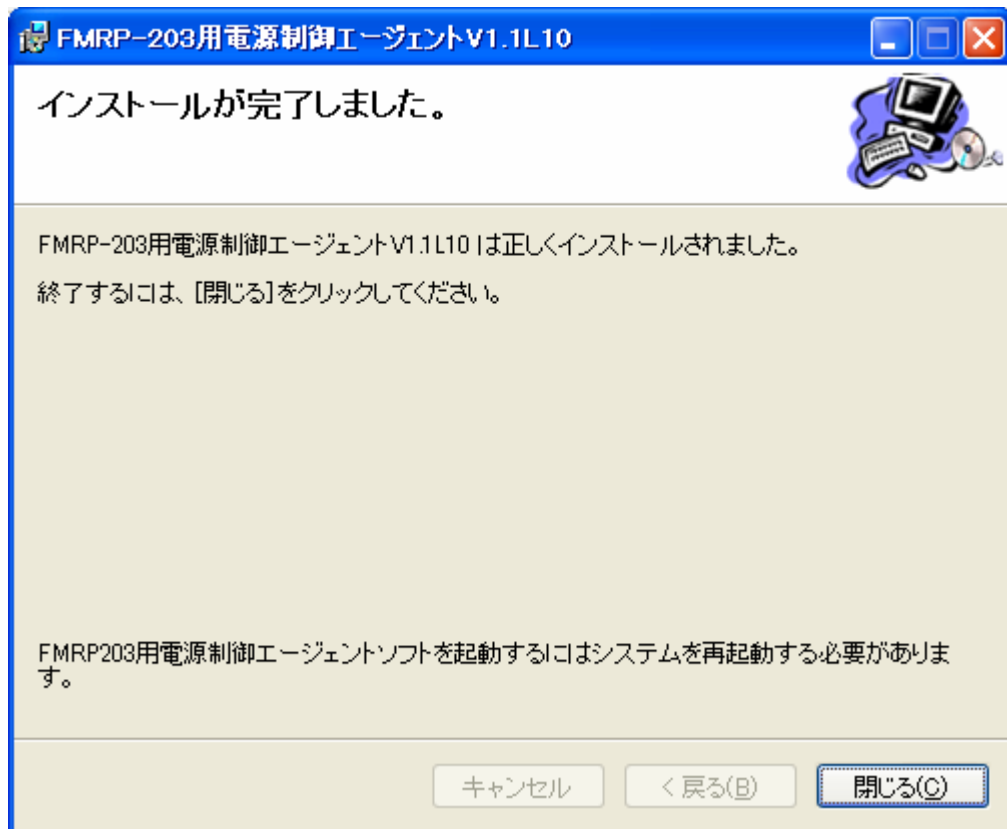
8.1.4 インストールの確認

[インストールの確認] 画面が表示されます。[次へ] ボタンをクリックすると、ファイルのコピーを開始します。インストール項目を変更する場合は、[戻る] ボタンをクリックしてください。



8.1.5 インストール完了

インストールが完了すると、[インストールの完了] ダイアログが表示されます。[完了] ボタンをクリックして、インストールを完了してください。



8.1.6 コンピュータの再起動

インストール完了後、コンピュータを再起動してください。

8.2 エージェントソフトのアンインストール

8.2.1 Windowsパソコンにログオン

エージェントソフトをアンインストールするコンピュータにAdministrator権限に所属するユーザ名で、ログオンします。

8.2.2 コントロールパネルの表示

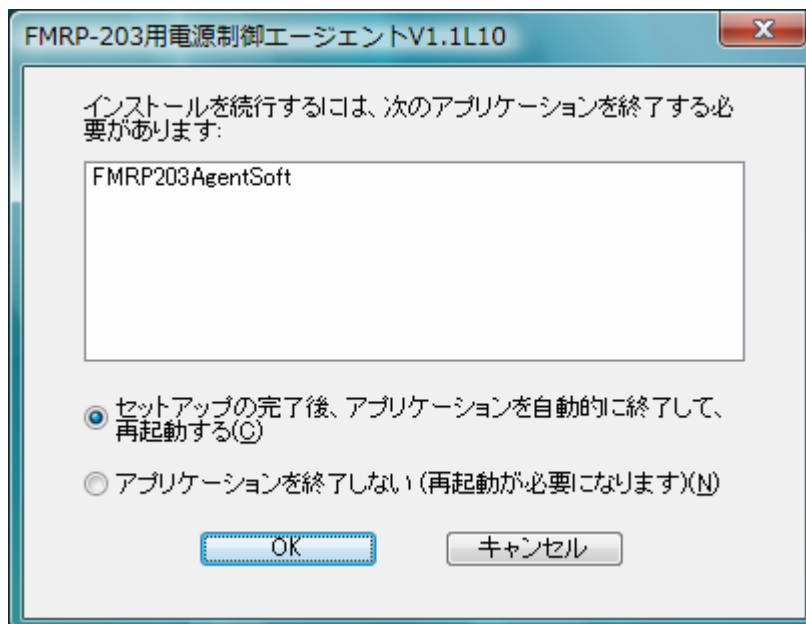
Windows画面にて「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

8.2.3 アンインストール操作

ご使用のWindowsごとに以下の操作を行います。

■Windows Vistaの場合

1. 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
2. 「FMRP-203 用電源制御エージェント」をクリックし、「アンインストール」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. 「ユーザアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、開始されるプログラムを確認し、「許可」をクリックします。
5. 以下の画面が表示された場合は「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」にチェックが入っている状態（デフォルト）で「OK」をクリックします。



■Window XPの場合

1. 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. 「FMRP-203 用電源制御エージェント」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。

■Window 2000の場合

1. 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. 「FMRP-203 用電源制御エージェント」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

8.3 留意事項

■ エージェントソフトのインストール後にインストール先のディレクトリ名を変更しないでください

変更した場合、エージェントソフトは起動できなくなります。また、この状況でアンインストールを実行するとレジストリ情報のみ削除され、インストールディレクトリ配下のファイルは削除されません。このような状況に陥った場合には手でインストールディレクトリ配下の全ファイルを削除してください。

■ インストール時に「前提条件を満たすことができません」と表示されセットアップが続行できない場合

Microsoft Internet Explorer 5 以前をご使用の場合にこのようなメッセージが表示されセットアップが続行できないことがあります。このような場合は、Microsoft Internet Explorer 6 へアップグレードしてからインストールを実行してください。

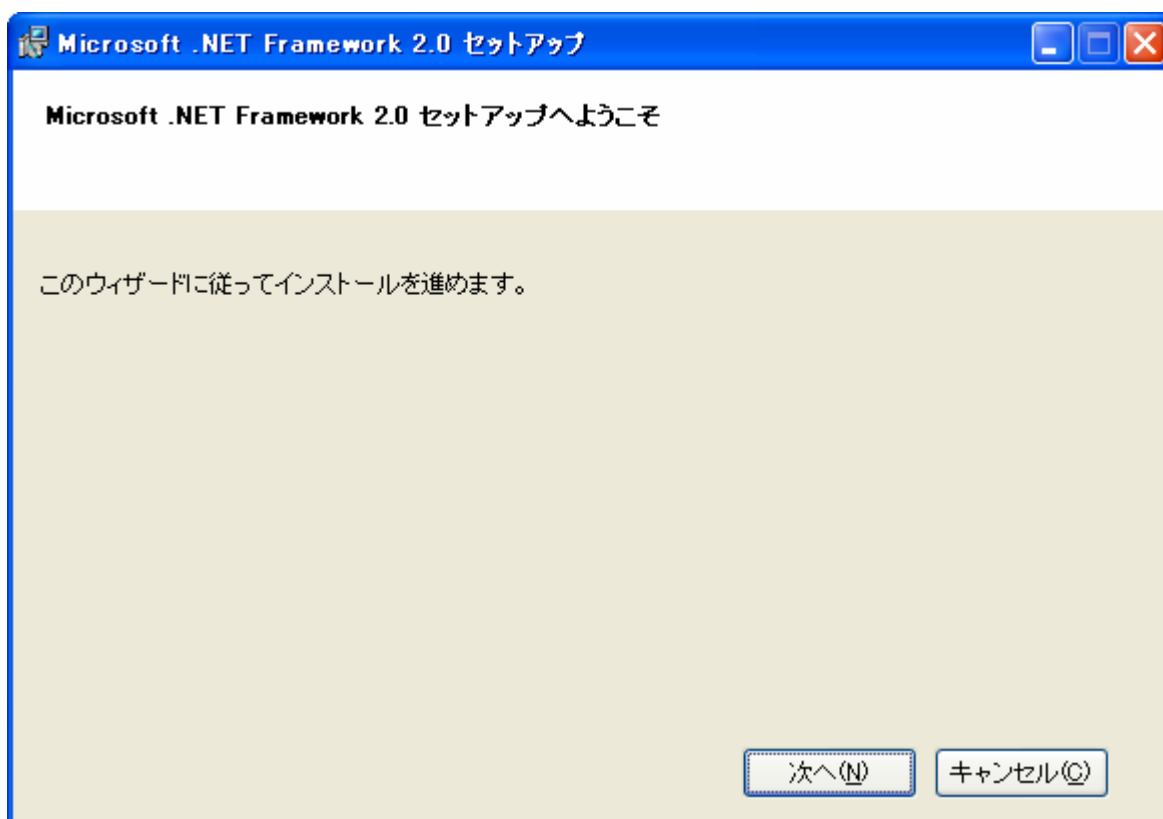
■ インストール時に Microsoft .NET Framework 2.0 がセットアップできない場合

本セットアッププログラムから Microsoft .NET Framework 2.0 をインストールする際、インターネットよりファイルダウンロードしセットアップを実行します。インターネットに未接続の場合や回線異常等によりファイルダウンロードが異常となる場合は、つぎの手順でインストールを実施してください。

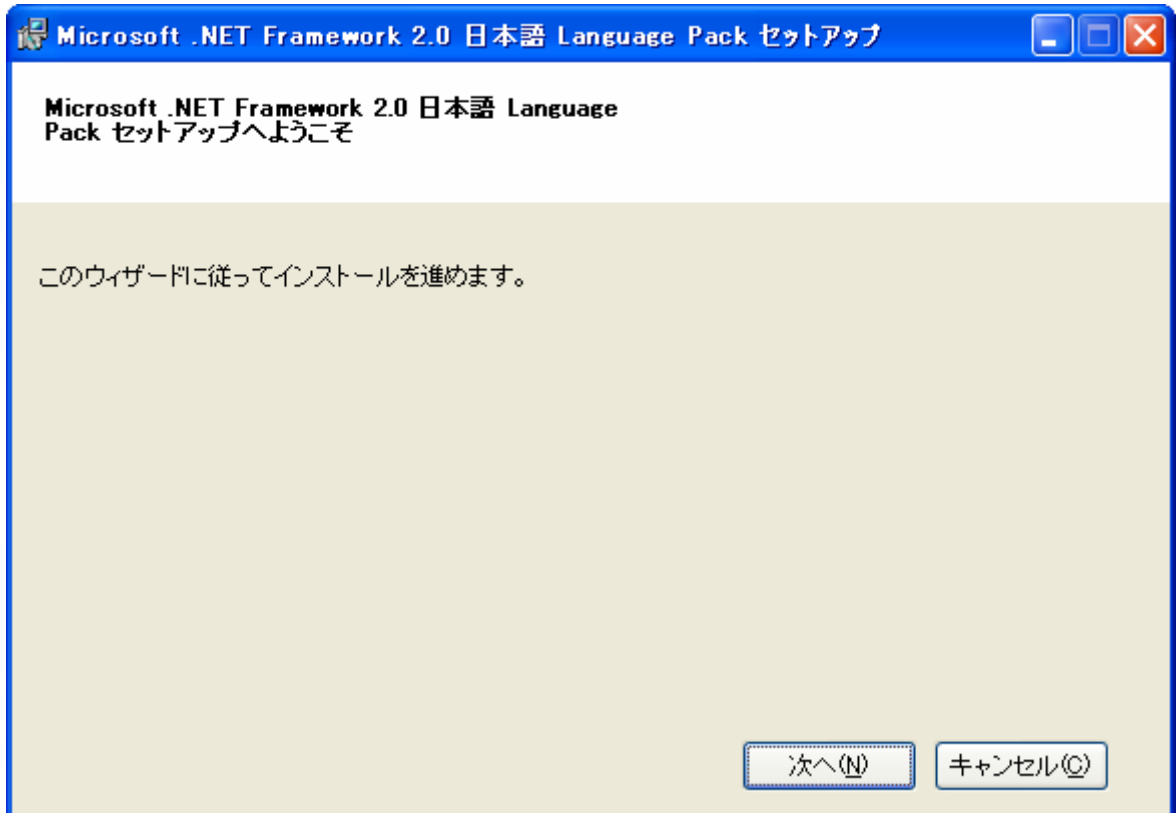
- ① インストールを行うコンピュータに本CD-ROMをセットします。
以降、指定ファイルをファイルエクスプローラで表示させ、ダブルクリックして実行します。
- ② `¥dotnet¥WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe` を実行し、画面に従い Windows Installer 3.1 (KB893803) を更新します。



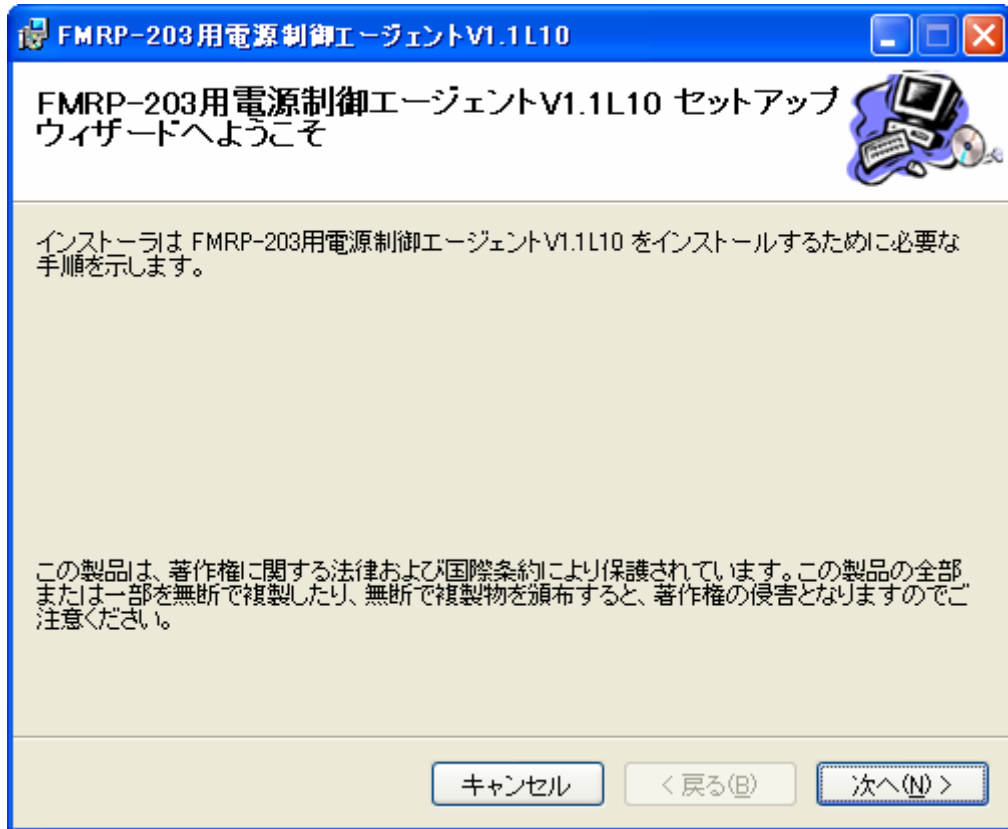
③dotnetfx.exeを実行し、画面に従いMicrosoft .NET Framework 2.0をセットアップします。



- ④ dotnetlangpack.exe を実行し、画面に従い Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack をセットアップします。



- ⑤AgentSoft¥Setup.msi を実行し、画面に従いFMRP-203 用電源制御エージェントをセットアップします。
詳細は「8.1.2 インストールを開始」以降を参照してください。



第9章 電源制御ボックス互換コマンドのインストールとアンインストール

本装置に添付の電源制御ボックス互換コマンドのインストール／アンインストールする手順について説明します。

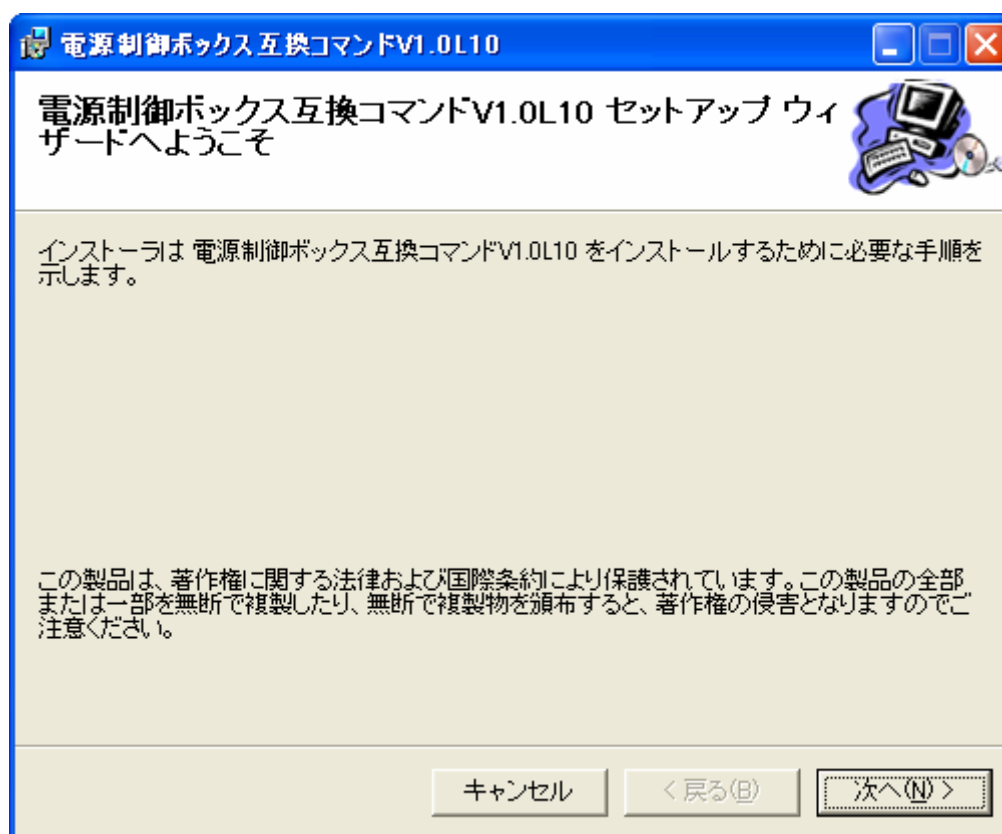
9.1 電源制御ボックス互換コマンドのインストール

9.1.1 Windowsパソコンにログオン

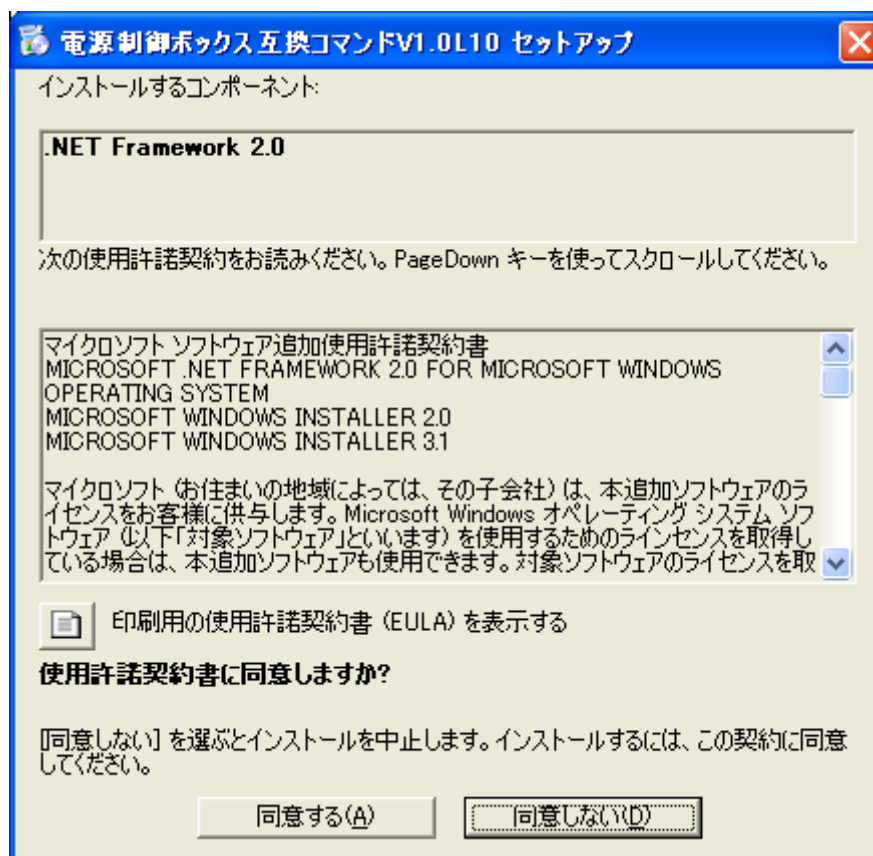
エージェントソフトをインストールするコンピュータにAdministrator権限に所属するユーザ名で、ログオンします。

9.1.2 インストールを開始

インストールを行うコンピュータに本CD-ROMをセットし、電源制御ボックス互換コマンドディレクトリ (¥command) 配下のインストールプログラム (Setup.exe) を実行します。
以下の画面が表示されたら、[次へ] ボタンをクリックします。

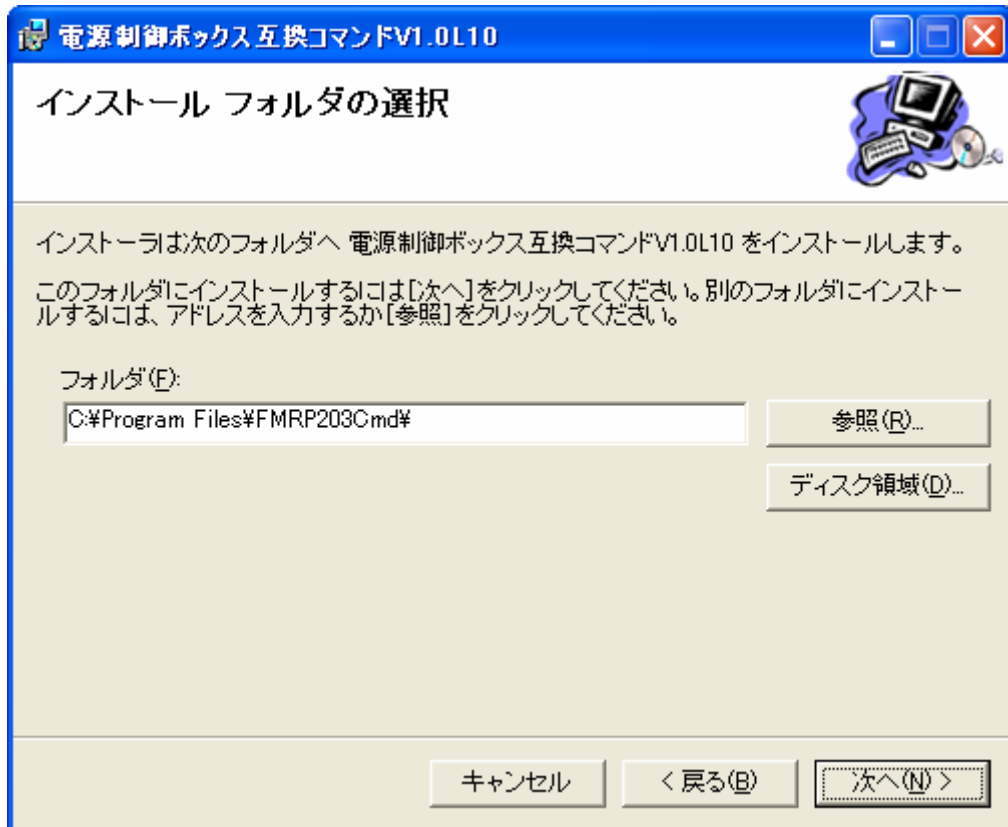


※このとき、前述の「セットアップウィザードによるこそ」画面が表示されず、以下のMicrosoft .NET Framework 2.0 のインストール画面が表示されたとき、まずMicrosoft .NET Framework 2.0 をインストールし、引き続き電源制御ボックス互換コマンドをインストールします。



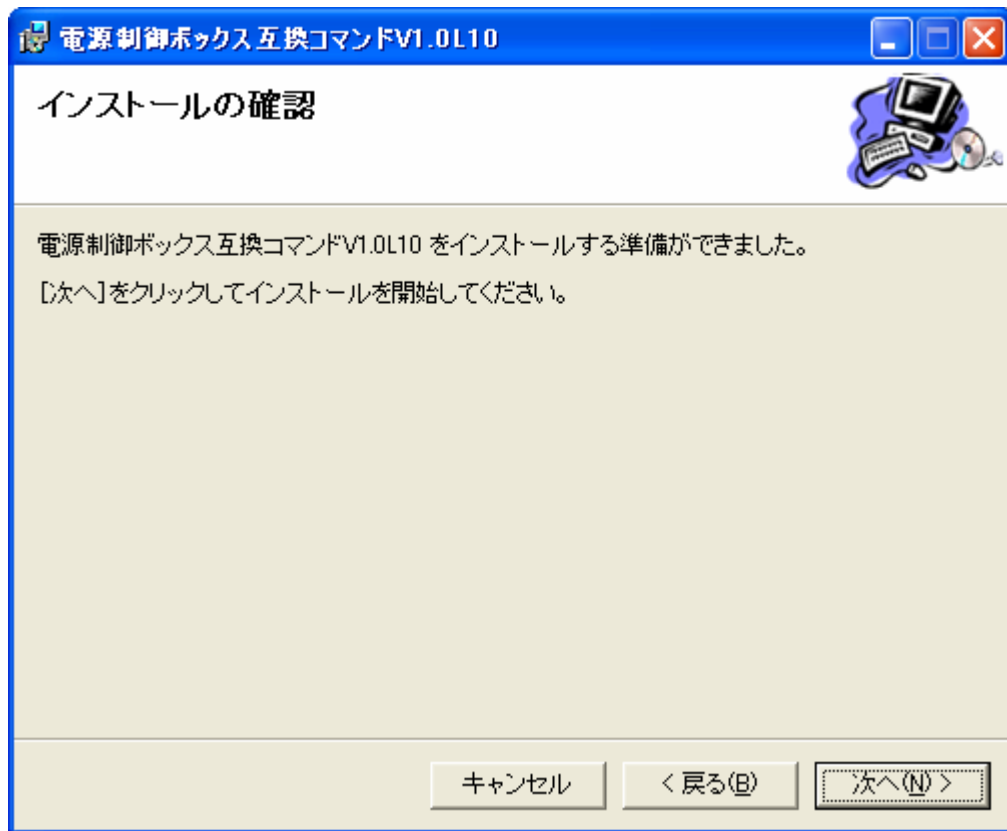
9.1.3 インストール先を指定

[インストールフォルダの選択] 画面でインストール先ディレクトリ（デフォルトは C:\Program Files\FMRP203Cmd）を確認し、[次へ] ボタンをクリックします。



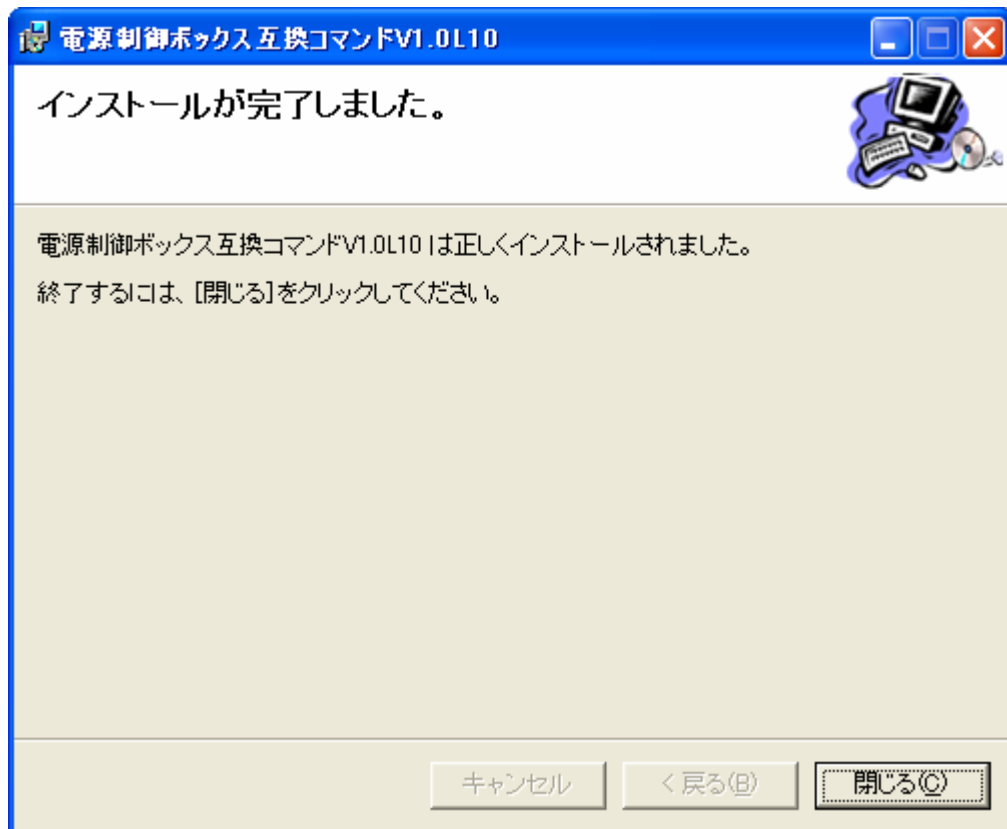
9.1.4 インストールの確認

[インストールの確認] 画面が表示されます。[次へ] ボタンをクリックすると、ファイルのコピーを開始します。インストール項目を変更する場合は、[戻る] ボタンをクリックしてください。



9.1.5 インストール完了

インストールが完了すると、[インストールの完了] ダイアログが表示されます。[完了] ボタンをクリックして、インストールを完了してください。



9.2 電源制御ボックス互換コマンドのアンインストール

9.2.1 Windowsパソコンにログオン

エージェントソフトをアンインストールするコンピュータにAdministrator権限に所属するユーザ名で、ログオンします。

9.2.2 コントロールパネルの表示

Windows画面にて「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

9.2.3 アンインストール操作

ご使用のWindowsごとに以下の操作を行います。

■Windows Vistaの場合

1. 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
2. 「電源制御ボックス互換コマンド」をクリックし、「アンインストール」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。
4. 「ユーザアカウント制御」ウィンドウが表示された場合は、開始されるプログラムを確認し、「許可」をクリックします。

■Windows XPの場合

1. 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. 「電源制御ボックス互換コマンド」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。

■Windows 2000の場合

1. 「プログラムの追加と削除」をクリックします。
2. 「電源制御ボックス互換コマンド」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「はい」をクリックします。

この後はメッセージに従って操作します。

9.3 留意事項

■ インストール時に「前提条件を満たすことができません」と表示されセットアップが続行できない場合

Microsoft Internet Explorer 5 以前をご使用の場合にこのようなメッセージが表示されセットアップが続行できないことがあります。このような場合は、Microsoft Internet Explorer 6 へアップグレードしてからインストールを実行してください。

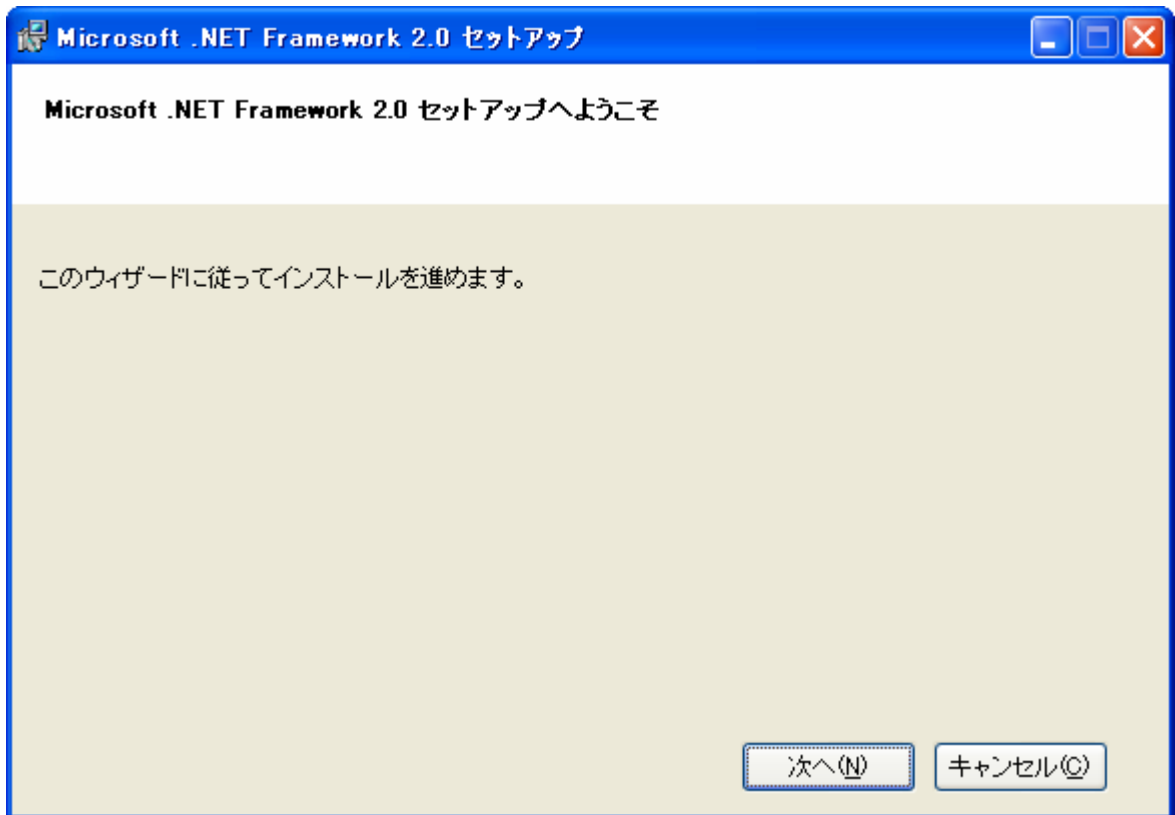
■ インストール時にMicrosoft .NET Framework 2.0 がセットアップできない場合

本セットアッププログラムから Microsoft .NET Framework 2.0 をインストールする際、インターネットよりファイルダウンロードしセットアップを実行します。インターネットに未接続の場合や回線異常等によりファイルダウンロードが異常となる場合は、つぎの手順でインストールを実施してください。

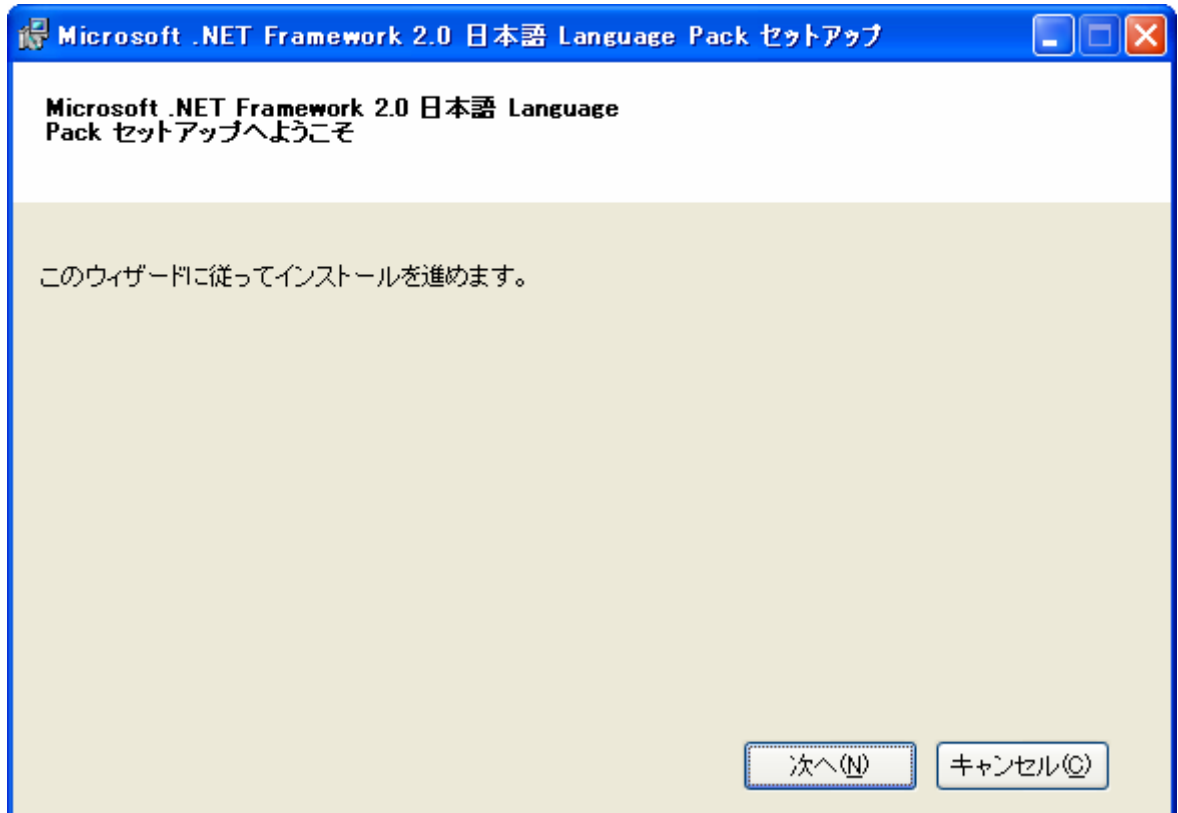
- ①インストールを行うコンピュータに本CD-ROMをセットします。
以降、指定ファイルをファイルエクスプローラで表示させ、ダブルクリックして実行します。
- ②dotnet¥WindowsInstaller-KB893803-v2-x86.exe を実行し、画面に従いWindows Installer 3.1 (KB893803)を更新します。



③dotnetdotnetfx.exe を実行し、画面に従いMicrosoft .NET Framework 2.0 をセットアップします。



- ④ dotnetlangpack.exe を実行し、画面に従い Microsoft .NET Framework 2.0 日本語 Language Pack をセットアップします。



- ⑤ ¥command¥Setup.msi を実行し、画面に従い電源制御ボックス互換コマンドをセットアップします。
詳細は「9.1.2 インストールを開始」以降を参照してください。

